

平成5年度（平成5年3月1日から平成6年2月28日まで）事業報告

特記事項

1. 「大学と企業双方にとって魅力ある新しい時代に則した協会(活動)をいかに構築するか」について「長期展望検討小委員会」(弘田昇委員長)が中心となり検討を重ねてきたが、10月17日の理事会にその検討結果が提案され、議決。平成7年4月への新体制移行に向け、企画委員会の下に新企画準備小委員会、学術準備小委員会、技術準備小委員会、および鉄鋼連盟との協議の場として標準化業務検討協議会を設置し、詳細検討を開始。新体制移行時期が本会の80周年に当たるので、この再構築活動の呼称を「リストラ80」と決定。
 2. 定款施行細則の変更により、賛助会員として新たに43名を推挙。
 3. 支部規則をH5.12.17の理事会で承認。施行はH6.4.1。
 4. 会員団体の性格を従来の事務処理団体から事業団体へと変更し、それに伴い分会組織規程を制定、施行はH6.4.1。
 5. 日本金属学会と共通の重要事項を協議する機関として、「金属・鉄鋼協議会」を設置。
 6. 創立80周年記念事業小委員会を設置し検討を開始。記念特集号(鉄と鋼 平成7年4月号)の編集小委員会を発足。
 7. 秋季講演大会からジュニアパーティーをISIJオープンパーティーと改め新発足。
 8. 日英機械翻訳を実施するため編集委員会の下部組織として機械翻訳推進分科会を設置。
 9. 平成7年の春秋講演大会は日本金属学会と分離開催を決定。その後の講演大会の開催方法については「リストラ80」の中で検討。
 10. 第1回鉄鋼工学アドバンスセミナーを12月に開催。
 11. 材料設計およびプロセス工学へのコンピューター利用に関する(第1回)国際会議を9月6日～9日東京で開催。講演件数76件参加者130名。
 12. 第8回日本・ドイツセミナーを10月6・7日仙台で開催。講演件数24件参加者84名。
 13. 共同研究会
 - (1)幹事長が細木繁郎より山本全作(新日本製鐵(株)顧問)に交替。
 - (2)製鉄部会製鉄技術検討会において産学共同で21世紀初頭の製鉄プロセスを展望し、「魅力ある製鉄プロセス」を刊行。
 - (3)電気炉部会において、欧州視察団を派遣し、「最近のアーケが製鋼法の進歩(第3版)」を刊行。
 - (4)品質管理部会非破壊検査小委員会が40回記念大会を開催し、「次世代技術ー夢のNDI」をテーマにパネルディスカッション。
14. 特基研究会
 - (1)鉄鋼基礎共同研究会の発展的解消に伴い、継続中の部会を本研究会に移管。
 - (2)鉄基複合材料部会、材料電磁プロセッシング部会、コークス製造のための乾留制御部会がシンポジウムを開催し終了。
 - (3)循環性元素分離部会が中間報告会および新製鋼フォーラムとの合同発表会を開催。
 - (4)4流体の移動現象部会、高強度鋼の遅れ破壊部会、スクラップ起因不純物元素の鋼材への影響部会、鉄鋼スラグの基礎と応用部会が発足。
 15. 基礎研究会
 - (1)熱プラズマ研究部会、ベイナイト調査研究部会、耐熱チタン研究部会および鉄鋼業における炭素ガス抑制対策研究部会がシンポジウムを開催、活動を終了。
 - (2)極低炭素鋼板研究部会は部会報告書「極低炭素鋼板の金属学」を平成5年8月に発刊し、部会活動を終了。
 - (3)鋼中介在物利用による組織と材質研究部会とネットレスト研究部会が発足。
 16. 平成6年2月末日をもって図書資料業務を縮小し、鉄鋼技術情報センターは閉鎖することを決定、本会所有の図書は千葉工業大学附属図書館に移管。
 17. 工業技術院より委託された鉄鋼JIS43規格について国際整合性の調査を行い、改正26件、確認10件、廃止7件の答申。
 18. 第18回ISO/TC17/EC(執行)国際会議を6月9日、10日の両日パリで主催。
 19. 第3回ISO/TC67/SC5(油井管)国際会議を9月20日～21日の2日間デュッセルドルフで主催。
 20. 中国の鉄鋼標準試料と本会製造のJSSとの交流実験を開始し、10品種の実験を終了。

目次

I. 会議	N308
1. 総会	N308
2. 評議員会	N308
3. 理事会	N308
4. 特別資金運営委員会	N308
5. 名誉会員候補選考委員会, 次期役員候補選考委員会	N308
6. 日本学術会議会員候補選考委員会	N308
7. 一般表彰選考委員会	N308
8. 特別表彰選考委員会	N308
9. 委員長会議	N308
10. 支部長会議	N308
11. 企画委員会	N308
11.1 会計分科会	N308
11.2 庶務分科会	N308
11.3 表彰奨励推薦分科会	N308
11.4 長期展望検討小委員会	N308
11.5 新企画、学術、技術準備小委員会	N309

11.6	創立80周年記念事業小委員会	N309
12.	境界領域委員会	N309
12.1	境界領域企画分科会	N309
12.2	チタン分科会	N309
12.3	材料電磁プロセッシング分科会	N309
12.4	プラズマプロセッシング分科会	N309
12.5	自動車用材料分科会	N309
12.6	粉末焼結分科会	N309
13.	編集委員会	N309
13.1	和文会誌分科会	N309
13.2	欧文会誌分科会	N309
13.3	講演大会分科会	N309
13.4	俄論文賞選考小委員会	N309
13.5	澤村論文賞選考小委員会	N309
13.6	機械翻訳推進分科会	N309
13.7	「鉄と鋼」創立80周年記念特集号編集小委員会	N309
14.	育成委員会	N309
14.1	企画小委員会	N309
14.2	知的財小委員会	N309
14.3	技術講座小委員会	N309
14.4	鉄鋼工学セミナー小委員会	N310
14.5	鉄鋼工学アドバンストセミナー小委員会	N310
14.6	日の方学術振興交付金選考分科会	N310
14.7	戦後技術史調査小委員会	N310
14.8	学生見学会実行分科会	N310
14.9	ものづくり教育を考える会実行分科会	N310
14.10	連続鑄造技術史編集小委員会	N310
14.11	外国人研究員奨学小委員会	N310
15.	国際交流委員会	N310
16.	研究委員会	N310
16.1	研究テーマ小委員会	N310
16.2	将来研究課題小委員会	N310
16.3	海洋材料小委員会	N310
16.4	科研費研究分科会	N310
16.5	製鋼研究連絡会	N310
16.6	研究環境実態調査小委員会	N310
17.	鉄鋼研究振興助成金選考委員会	N310
18.	国際鉄鋼技術委員会	N310
19.	鉄鋼技術情報センター運営委員会	N310
19.1	図書館小委員会	N310
19.2	プロシーディングス小委員会	N310
19.3	情報管理研究部会	N310
20.	鉄鋼標準化センター運営委員会	N310
21.	標準化委員会	N310
22.	鉄鋼JIS三者委員会	N311
23.	鉄鋼標準試料委員会	N311

II. 会 員

1.	名誉会員	N311
2.	会員の異動	N311
3.	会員事務管理	N311

III. 役員および委員

1.	理事	N311
2.	監事	N312
3.	評議員	N312
4.	支部長	N312
5.	常務委員	N312
6.	企画委員	N312
7.	境界領域委員	N312
8.	編集委員	N312

9.	育成委員	N312
10.	国際交流委員	N312
11.	研究委員	N312
12.	鉄鋼研究振興助成金選考委員	N312
13.	国際鉄鋼技術委員	N313
14.	鉄鋼技術情報センター運営委員	N313
15.	鉄鋼標準化センター運営委員	N313
16.	標準化委員	N313
17.	鉄鋼JIS三者委員	N313
18.	鉄鋼標準試料委員	N313

IV. 一般会計による事業

1.	刊行事業	N313
1.1	鉄と鋼	N313
1.2	ISIJ International	N313
1.3	材料とプロセス	N313
1.4	図書の刊行	N313
2.	講演大会事業	N313
2.1	講演大会	N313
2.2	特別講演会	N314
2.3	講演大会見学会	N314
3.	育成事業	N314
3.1	知的財活用	N314
3.2	西山記念技術講座	N314
3.3	白石記念講座	N314
3.4	鉄鋼工学セミナー	N314
3.5	鉄鋼工学アドバンストセミナー	N314
3.6	学生見学会	N314
3.7	ものづくり教育を考える会	N314
3.8	外国人研究員奨学制度	N314
3.9	他学協会との共催、協賛、後援による事業	N314
4.	国際交流事業	N314
4.1	材料設計およびプロセス工学へのコンピューター利用に関する国際会議	N314
4.2	二国間シンポジウム	N314
4.3	国際会議・二国間シンポジウム・小規模国際会議準備状況	N314
4.4	その他の国際交流	N315
5.	技術調査・研究事業	N315
5.1	共同研究会	N315
5.2	特基研究会	N316
5.3	基礎研究会	N317
5.4	日本金属学会との共同研究	N317
6.	技術情報事業	N317
6.1	図書・資料事業	N317
6.2	情報業務事業	N317
6.3	著作物等の頒布	N317
7.	標準化事業	N317
7.1	標準規格作成事業	N317
7.2	ISO幹事国事業	N318
7.3	鉄鋼標準試料事業	N319

V. 特別会計による事業

1.	特別資金会計による事業	N319
1.1	表彰	N319
1.2	湯川メモリアルレクチャー	N320
1.3	石原・浅田研究助成金	N320
1.4	日の方学術振興交付金	N320
1.5	浅田記念文庫の寄贈	N321
1.6	戦後技術史調査事業	N321
1.7	鉄鋼研究振興助成金	N321

2. 補助金等事業会計による事業	N321	1.4 東海支部	N323
2.1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査	N321	1.5 関西支部	N324
2.2 日本圧力容器研究会議	N321	1.6 中国四国支部	N324
2.3 ネットネストシティー研究	N321	1.7 九州支部	N325
VI. 支部	N322	2. 収支決算	N326
1. 事業	N322	VII. 平成5年度収支決算	N327
1.1 北海道支部	N322	VIII. 総務事項	N330
1.2 東北支部	N322	IX. 寄付金の受入れ	N330
1.3 北陸支部	N323		

I. 会議

1. 総会

第78回通常総会。H5.3.31。横浜国立大学大学会館4階ホール。
議事

- (1) 平成4年度事業報告ならびに収支決算承認可決
- (2) 平成5年度事業計画ならびに収支予算承認可決
- (3) 理事、監事ならびに評議員選挙の件一別記のとおり当選就任

2. 評議員会

平成5年度第1回評議員会、H6.2.18
議事

- (1) 平成5年度事業報告ならびに収支決算
- (2) 平成6年度事業計画ならびに収支予算
- (3) 次期理事、監事ならびに評議員候補者推薦
- (4) 名誉会員推挙

3. 理事会

10回開催。H5.3.31、5.4.1、5.4.23、5.6.18、5.7.30、5.10.17、5.12.17、H6.1.25(書面審議)、H6.2.18、H6.3.16。一般会務につき協議決定。

4. 特別資金運営委員会

H6.1.21。表彰ならびに事業資金、渡辺義介記念資金・西山弥太郎記念資金・湯川正夫記念資金・浅田長平記念資金・白石元治郎記念資金・日の方学術振興資金・外島健吉記念資金・研究振興資金および鉄鋼研究振興資金の平成5年度事業および決算案ならびに平成6年度事業計画および予算案を審議。

特に、平成5年3月から実施した「日本鉄鋼協会・日本金属学会奨学賞」に関する費用を表彰ならびに事業資金から支出。

5. 名誉会員候補選考委員会、次期役員候補選考委員会

2回開催。H5.10.17、H6.1.21。名誉会員の選考。
H6.1.21。次期理事、監事、評議員の選考。

6. 日本学術会議会員候補者選考委員会

H6.1.21。第16期日本学術会議会員候補2名を選出。

7. 一般表彰選考委員会

2回開催。H5.7.30、H6.1.21。本会表彰の受賞者の選考。

8. 特別表彰選考委員会 本年度なし

9. 委員長会議 1回開催。

H5.9.16、長期展望検討小委員会の検討結果報告に関して。

10. 支部長会議 2回開催。

H5.4.1、5.10.17。支部組織運営のあり方、支部活動の活性化、運営資金、支部規則、支部地域別区分等について本部と支部との意見交換。

11. 企画委員会(委員長:弘田 昇)7回開催。

H5.4.16、5.6.4、5.7.16、5.10.1、5.12.3、6.2.4、6.3.11。事業運営上の諸計画、予算、国際交流、他団体からの依頼による表彰奨励の推薦などについて協議。

11.1 会計分科会(主査:近藤 嘉一)5回開催。

予算決算、補助金の処理など経理に関する事項を審議。

11.2 庶務分科会(主査:浅野 鋼一)7回開催。

諸規程の審議。

11.3 表彰奨励推薦分科会(主査:浅野 鋼一)7回開催。

他団体からの依頼による表彰奨励候補の選考。なお、本年度受賞したものは次のとおり。

第28回 機械振興協会賞

新日本製鐵㈱「アモルファスクリーナーの開発」

第24回 石川賞

川崎製鐵㈱「総合設備管理システム」

第28回 日本塑性加工学会賞

会田技術奨励賞 (株)神戸製鋼所「新しいプレスモーションによる一体型クランク軸ニヤネット鍛造技術の開発と実用化」

平成5年度全国発明表彰

(1) 発明賞 川崎製鐵㈱「焼付硬化性と超深絞り性を有する自動車軽量化用鋼板の開発の発明」

(2) 経済団体連合会会長発明賞

新日本製鐵㈱「レーザー照射による極低鉄損方向性珪素鋼板の発明」

第34回 東レ科学技術研究助成

宇宙科学研究所 栗原 一彦

「ファイセット界面形態安定性とその制御に関する研究」

第40回 大河内賞(大河内記念技術賞)

川崎製鐵㈱「連続鍛圧による連続鋳造の中心偏析解消技術の開発」

(株)神戸製鋼所「超高強度低炭素鋼極細線の開発」

日本鋼管㈱「サンドイッチ型組立スラブを用いた高性能圧延クラッド鋼板の製造技術の開発」

11.4 長期展望検討小委員会(委員長:弘田 昇)8回開催。

協会活動の学術・技術面での一層の魅力化を目指し、具体策を検討。中長期的視点に立った改革案「長期展望検討小委員会」検討結果報告」を10月17日理事会に提案、了承。事業を企画・学術・技術3部門に集約再編し、標準化センターを鉄鋼連盟へ一本化、情報センターは機能を縮小する。H6年度から可能な限り実行に移るが、大巾な組織改正はH7年度に実施予定。本小委員会は10月31日を以て解散。(報告書は会誌「鉄と鋼」Vol.79 No.12に掲載)

委員 H5.4.1 委嘱 前田 正史、田中 淳一

H5.5.1 委嘱 鹿子木公春

H5.10.31 解囑 弘田 昇、荒牧 透、馬越 佑吉
佐野 信雄、篠田 研一、島田 仁
半明 正之、前田 正史、前田 正文
田中 淳一、鹿子木公春

11.5 新企画、学術、技術準備小委員会

上記報告書に基づき、企画委員会の下に新企画準備小委員会(委員長:佐野 信雄)、学術準備小委員会(委員長:馬越 佑吉)、技術準備小委員会(委員長:田中 實)を11月設置。標準化業務検討協議会(委員長:服部 正幸、11月発足)、情報センター運営委員会(委員長:岸 輝雄、現行)と共に新体制へ向けて詳細検討を開始。

1) 新企画準備小委員会委員

H5.11.1 委囑 佐野 信雄
H5.11.16 委囑 王寺 睦満、大中 逸雄、岸 輝雄
島田 仁、鈴木 朝夫、新居 和嘉
野田 忠吉、半明 正之、三芳 純

2) 学術準備小委員会委員

H5.11.1 委囑 馬越 佑吉
H5.11.19 委囑 井口 泰孝、木内 学、篠田 研一
中島 浩衛、中西 恭二、前田 正史
牧 正志
(協力委員) 小指 軍夫、佐久間健人、宮崎 亨

3) 技術準備小委員会委員

H5.11.1 委囑 田中 實
H5.11.18 委囑 浅井 滋生、新井 哲三、荒牧 透
斎藤 忠、雀部 實、中島 龍一
堀 珊吉、森 克巳、矢島 忠正

11.6 創立80周年記念事業小委員会(小委員長:浅野 鋼一)

2回開催。創立80周年(平成7年)の記念行事および事業について検討。記念式典の開催、「鉄と鋼」記念特集号ならびに協会史の刊行のほか、懸賞論文の募集等を決定。

H5.5.6 委囑 新井 哲三、小林 邦彦、佐藤 彰
篠田 研一、中澤 吉、柳 義親
渡辺 馨
H5.9.8 解囑 中澤 吉 委囑 荒牧 透
H5.9.17 解囑 渡辺 馨 委囑 岡本 圭司

12. 境界領域委員会(委員長:岸 輝雄) 4回開催

発足後2年目の本年は、各分科会において、研究調査活動、他の学協会との共同活動、海外研究者との交流、総合的解説書の作成準備などの活動を実施。また、粉末焼結分科会を新設し活動を開始。さらに、会員の関心事である環境、複合材料、金属間化合物、セラミックス、建築用材料についての活動も検討中。

12.1 境界領域企画分科会(主査:吉田 豊信) 4回開催

各分野別分科会の活動の交流、H6年度の活動計画および予算を討議。また、第126、127回講演大会に於て、各分科会からの投稿を奨励し、全体投稿件数84件。

12.2 チタン分科会(主査:河部 義邦) 4回開催

日米欧チタン研究討論会(米国7名、欧州3名、日本22名、12月)・Dr.Froes講演会(米、7月)・Dr.Lee講演会(韓、11月)を実施。春秋講演大会では、「チタン開発の半世紀」と題する特別講演を実施、また日本金属学会と会場を調整。春秋講演大会投稿件数32件。

12.3 材料電磁プロセス分科会(主査:浅井 滋生) 3回開催

高周波磁場の応用に関する研究発表討論会を実施。Dr.Garnier講演会(仏、10月)を実施。講演大会では指定テーマを設けて投稿奨励し、5件。

12.4 プラズマプロセス分科会(主査:牛尾 誠夫) 3回開催

解説書作成WG3回開催。「熱プラズマの環境問題対応プロセスへの応用」等に関する研究発表を実施。日本学術振興会主催のプラズマ材料科学シンポジウムに実質的に協賛。総合的解説書の作成準備を実施。講演大会では指定テーマを設けて投稿奨励し、10件。

12.5 自動車用材料分科会(主査:武智 弘) 4回開催

自動車会社からの依頼講演討論会を実施。(社)自動車技術会と共催で「自動車用材料シンポジウム～高強度化の限界を探る～」を実施。(10月、240名)更に自動車用材料共同調査研究会(自技会との共同運営)を発足させ、共同調査研究を実施。

12.6 粉末焼結分科会(主査:渡辺 龍三) 3回開催

H5年4月に発足。活動方針、「鉄鋼の粉末冶金」のテキスト作成に関し討議。「高強度鋼粉末、ステンレス鋼粉末、工具鋼粉末の製造と特性」に関し研究発表。春秋講演大会投稿件数13件。

13. 編集委員会(委員長:佐野 信雄→小指 軍夫)6回開催

- (1) 機械翻訳検討小委員会を、5000語の辞書構築の成果を得て、平成5年3月末解散。引き続き機械翻訳推進体制を整備するための準備会を発足。事業の可能性が確認されたので平成5年10月機械翻訳推進分科会を編集委員会の下部組織として設置を決定。
- (2) 俵論文賞5件、澤村論文賞3件を選考。
- (3) 本会主催小規模国際会議発表論文は、開催の都度ISIJ International特集号として発行することを決定。
- (4) 鉄と鋼創立80周年記念特集号編集小委員会およびそのもとに9WGを発足。

13.1 和文会誌分科会(主査:木原 諄二→牧 正志) 11回開催

- (1) ISIJ情報ネットワークに「新企画記事」掲載開始。
- (2) 用紙の軽量化を図ると同時に、発送方法も封筒発送式からポリラッピング方式に変更。

13.2 欧文会誌分科会(主査:佐野 正道) 11回開催

- (1) International Advisory Boardメンバーを7人から17人に増員。
- (2) フロッピーディスクによる投稿を実施。
- (3) 国内からの論文投稿減少に伴い、講演大会発表講演からの投稿勧誘を実施。

13.3 講演大会分科会(主査:梶岡 博幸) 7回開催

- (1) 第125回、126回講演大会の企画・実施、H6年春秋講演大会の討論会テーマの決定。
- (2) 「材料とプロセス」Vol.6、No.1～No.6を発行。
- (3) 講演大会での発表手段をプロジェクターを廃止し、OHPに限定。
- (4) 講演大会に学生ポスターセッションの設置を決定。
- (5) 第126回講演大会よりジュニアパーティーをISIJオープンパーティーと名称を変更。
- (6) フロッピーによる講演申込を第127回講演大会より実施。

○鋼構造物WG(リーダー:坂本 傑) 5回開催

春秋講演大会における依頼講演者、シンポジウムの企画。

13.4 俵論文賞選考小委員会(委員長:牧 正志)

候補論文37件を5件に絞り、編集委員会へ提案。

13.5 澤村論文賞選考委員会(委員長:佐野 正道)

候補論文32件を3件に絞り、編集委員会へ提案。

13.6 機械翻訳推進分科会(主査:石原 慶一) 2回開催

(株)日鉄技術情報センター(翻訳実施機関)と富士通(株)(ATLASシステム)で分科会を構成し、事業の推進に当たったのシステムとそのPRを実施。

13.7 「鉄と鋼」創立80周年記念特集号編集小委員会

(委員長:小指 軍夫)

特集号の基本方針、目次、執筆者、執筆要領を決定。

14. 育成委員会(委員長:遠藤 孝雄) 3回開催

①連鑄技術史編纂小委員会、②鉄鋼工学アドバンスセミナー小委員会、③外国人研究員奨学小委員会の3つの小委員会を設置。

14.1 企画小委員会(小委員長:永田 和宏) 6回開催

平成5年度に検討した新テーマは11件。80周年記念事業の一環としての懸賞論文についても検討。

14.2 知的財小委員会(小委員長:増子 昇) 2回開催

新たな著作分野として「溶接」、「特殊鋼」、「分析」および「薄板」を決定。

14.3 技術講座小委員会(小委員長:河部 義邦) 4回開催

西山記念技術講座3テーマ5回。白石記念講座2テーマ2回開催すると同時に、平成6年度のテーマを次のとおり決定。

- (1) 西山記念技術講座
第153・154回「鋼のスラブ連続鑄造技術の最新の動向」
第155・156回「軟磁性材料」
- (2) 白石記念講座
第26回「基礎素材事業分野における研究開発体制」
第27回「普通鋼電気炉業の現状と展望」

14.4 鉄鋼工学セミナー小委員会(小委員長：徳永 洋一)1回開催
第19回鉄鋼工学セミナーの実施ならびに第20回(平成6年度)を計画。

14.5 鉄鋼工学アドバンストセミナー小委員会(小委員長：阿部 光延) 3回開催
第1回鉄鋼工学アドバンストセミナーの実施ならびに第2回(平成6年度)の計画。

14.6 日向方斉学術振興交付金選考分科会(主査：萬谷 志郎) 2回開催
第20、21回学術振興交付金対象者の選考を行い、8名を選定。

14.7 戦後技術史調査小委員会(小委員長：田畑新太郎)
「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展」英文版を5月発行した。

14.8 学生見学会実行分科会(主査：山田 文雄) 4回開催
第8回学生見学会の実施ならびに第9回の計画。

14.9 ものづくり教育を考える会実行分科会(小委員長：井口 泰孝) 3回開催
平成5年度製鉄所見学会と鉄鋼技術者・研究者との懇談会を実施し、ものづくり教育を考える会を組織化。

14.10 連鑄技術史編纂小委員会(小委員長：郡司 好喜) 5回開催
編集方針を決定し、12のWGを発足させ、執筆を推進。

14.11 外国人研究員奨学小委員会(小委員長：遠藤 孝雄) 1回開催
平成6年度の外国人研究員の招聘を計画。

15. 国際交流委員会(委員長：富浦 梓)4回開催

- 1)小規模国際会議公募の決定
- 2)国際会議、小規模国際会議、二国間シンポジウム開催計画の検討
- 3)国外関係学協会との学術、技術交流の推進

16. 研究委員会(委員長：宮崎 亨)6回開催

7月と9月に、「研究環境実態調査小委員会報告書」の有効活用を図る方策や報告書が提言する諸課題の対応等について自由討議を実施。この結果、「企業と大学との交流検討WG」が設立され、諸課題への対応を具体的に上げて活動を開始。

日本学術会議金属工学研究連絡委員会(金研連)に平成6年度発足する金属プロセス専門委員会の活動を全面的に支援するため、鉄鋼協会がH6年度のホスト学協会になること、そのため研究委員会に金属プロセス専門小委員会(仮称)の新設を決定。

16.1 研究テーマ小委員会(小委員長：羽田野 道春)2回開催

H6年度実施の研究テーマの公募と選定。応募件数：30件、選定件数：特基研究会共同研究テーマ：4件(→2件に統合)、特基研究会単独研究テーマ：選定なし、基礎研究会テーマ：11件(→2件に統合)、金属・鉄鋼協会の推薦テーマ：1件(実施は特基研究会共同研究テーマ)、応募者/共同研究希望機関の直接協議テーマ：13件、大規模研究プロジェクト：なし、石原・浅田研究助成テーマ：1件(研究テーマ名、研究者名は会誌1月号参照)。

H7年度実施の研究テーマ公募用の主要技術課題の見直し整理。

16.2 将来研究課題小委員会(小委員長：徳田 昌則)2回開催
報告書「フェロ・フロンティア・サイエンスー将来研究課題の探索にあたって」を作成し、将来の鉄鋼技術に対し多くの示唆を提示。(報告書は「鉄と鋼」3月号参照)。

16.3 海洋材料小委員会(委員長：小川 幸文→渡辺 祐一)3回開催
関係7学協会共催の海洋工学連絡会/海洋工学パネルへの対応で活動中。

16.4 科研費研究分科会(主査：佐久間 健人)3回開催

H6年度文部省科学研究費補助金の第1段審査委員と第2段審査委員に関し鉄鋼協会推薦者を選考して、幹事学協会へ通知。また鉄鋼協会が幹事学協会を務める細目「金属生産工学」に関しては協議学協会へ推薦依頼の案内と取りまとめ等を実施。

16.5 製鋼研究連絡会(座長：佐野 信雄)2回開催

製鋼の現場技術者と大学を含む研究者との意思の疎通を図り、製鋼の将来技術の基盤となる研究テーマについて討議。

16.6 研究環境実態調査小委員会(委員長：佐久間 健人)

昨年度調査した研究環境実態調査報告書を本年度当初に作成し、本小委員会は解散。本報告書の活用方法は研究委員会で検討。

17. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会(委員長：北村 卓夫)委員会1回、幹事会2回開催。

第3回の助成金(H6年度実施)は47件の応募があり20件を選定。H6年度研究助成総額は4640万円。(研究テーマ名、研究者名は「鉄と鋼」平成5年1月号参照)

18. 国際鉄鋼技術委員会(委員長：富浦 梓)3回開催。

- 1)第25回技術委員会定例会議(ウィーン)の出席報告
- 2)第27回IISI年次総会(パリ)のパネル討議テーマ、内容の検討準備
- 3)次回のパネル討議テーマ検討および新規スペシャルスタディテーマ、技術交流セッションテーマについて討議。

19. 鉄鋼技術情報センター運営委員会(委員長：岸 輝雄)4回開催

長期展望検討小委員会の方針「情報業務に関する機能を大幅に縮小し、鉄鋼技術情報センターは閉鎖する」とのH5.10.17理事会議決をうけて、次の通り決定実施し、図書業務はH5年度末(H6.2.28)で閉鎖。

- 1)会員への図書の閲覧、貸出、複写等のサービスのため本会所蔵の一般図書、デポジトリライブラリー、プロシーディングス、学術振興会製鋼第19委員会・製鉄第54委員会資料の移管を公募し千葉工業大学附属図書館に移管することを決定。
- 2)協会刊行物の複写、共同研究会資料の複写(共研加盟会社に限る)および協会刊行物の頒布サービスは継続。
- 3)「鉄と鋼」、「材料とプロセス」、「ISIJ International」のロールフィルム、共同研究会、学術振興会製鋼第19委員会・製鉄第54委員会資料のマイクロフィッシュ、および共同研究会資料索引誌の作成、頒布は継続。
- 4)日本科学技術情報センター(JICST)の端末を利用した情報サービスは廃止。
- 5)JICSTから受託している技術文献抄録、校閲業務は当面継続。
- 6)情報管理研究部会の継続をリストラ80協議会に提案。

19.1 図書館小委員会(小委員長：川原 正言)2回開催

閉鎖に伴い上記1)2)3)の事項を決定。

19.2 プロシーディングス小委員会(小委員長：鈴木 正敏)3回開催

入手した国際会議資料(プロシーディングス)に分類付与、データベースを作成。

19.3 情報管理研究部会(部会長：白木 大太郎)2回開催

上記6)の事項を提案。各社に於ける技術情報管理体制についてのシンポジウム(3月)開催。シーティエス大日本(6月)海洋科学技術センター(11月)見学会を開催。「情報サービス部門の今後のあり方」(1月)講演会を開催。

20. 鉄鋼標準化センター運営委員会(委員長：藤原 俊朗)3回開催

鉄鋼標準化事業推進中長期計画に基づくH5年度事業の進捗、1994年ISO/TC67総会日本開催引受けに伴う国内調整、JISマーク表示制度改善への提言案の支援等を審議。幹事国業務遂行のためTC17諮問部会3回、TC17/SC1諮問部会3回、TC67/SC5諮問部会6回、同WG7回開催。

21. 標準化委員会(委員長：副島 利行)3回開催

工業技術院のJISの制定・改正等の重要事項に対する対応方針、鉄鋼標準化事業の課題と今後の進め方等を審議。運営分科会および12の分科会は鉄鋼JISの見直し、改正原案の作成等のため57回開催。また各分科会のもとで専門業務を検討したWGは40回開催。なおSI単位小委員会はその役割を達成したので機能を運営分科会に吸収し解散。

22. 鉄鋼JIS三者委員会(委員長:木原 諄二)委員会3回。小委員会1回開催。

工業技術院より委託された39件(鋼材27件、試験方法10件、分析方法2件)を審議。H6年3月に報告書を提出予定。なお国際整合性の調査、改正、確認、廃止の要否などの草案作成は標準化委員会JP1.3~6分科会、JE2~5分科会が実施。

23. 鉄鋼標準試料委員会(委員長:佐伯 正夫)委員会1回。運営部会3回開催。

需要家のニーズに沿った標準試料の更新および将来のニーズに即した新製品の開発、事業の効率化並びに中国標準試料との交流実験など国際化に対応した事業運営に関する審議を実施。

II. 会員

1. 名誉会員

加藤 健三、木下 亨、Alfred Randak、Michel Oletteを平成5年度総会において推挙。

2. 会員の異動

	名誉	賛助	維持	外国	正	学生	計
H5.2.28現在	65	5	226	631	9,120	176	10,223
入会	2	7	4	32	669	183	897
転格	2	36		25	99	8	170
				-14	-67	-89	-170
退会		-1	-10	-119	-776	-13	-919
死亡退会	-1	-1		-1	-23		-26
H6.2.28現在	68	46	220	554	9,022	265	10,175

3. 会員事務管理

- 1) 会費の自動振込制度を採用。平成6年2月末現在の正会員、学生会員の28%が自動振込制度の活用。
- 2) 会員団体組織制度を廃止し、平成6年度より分会組織制度を施行。
- 3) 会員事務管理システムの構築がほぼ完了。

III. 役員および委員

1. 理事

H5.3.31第78回通常総会において任期満了理事の改選を行い、次の者当選就任。

(任期2年)

石井 邦宜 遠藤 孝雄 河部 義邦 木原 諄二 副島 利行
 田中 實 野田 忠吉 長谷川義彦 日西 弘明 藤井 資也
 堀 珊吉 牧 正志 宮崎 亨 森 勉 八木順一郎

なお、留任の理事は下記のとおり。

浅井 滋生 浅野 鋼一 内仲 康夫 江本 寛治 大西 敬三
 岸 輝雄 近藤 嘉一 島田 仁 弘田 昇 富浦 梓
 萬谷 志郎 馬越 佑吉 三好 俊吉 森 克巳 森 甲一

H5.3.31理事会において、互選により次のとおり当選就任。

会 長 三好 俊吉
 副会長 萬谷 志郎 田中 實
 専務理事 島田 仁

なお、理事職務分掌は次表のとおり。

○委員長 △主査

	留任理事	新任理事
会 長	三好 俊吉 (NKK)	田中 實 (新日鉄)
副 会 長	萬谷 志郎 (秋田高専)	
専 務 理 事	島田 仁 (鉄鋼協会)	
企 画 委 員 会	内仲 康夫 (新技術事業団)	遠藤 孝雄 (横国大)
	江本 寛治 (川 鉄)	田中 實 (新日鉄)
	岸 輝雄 (東 大)	副島 利行 (神 鋼)
	○弘田 昇 (日新)	野田 忠吉 (住 金)
	森 甲一 (愛 知)	日西 弘明 (中 山)
		宮崎 亨 (名工大)
庶務分科会	△浅野 鋼一 (山 特)	堀 珊吉 (鉄 連)
		八木順一郎 (東北大)
会計分科会	大西 敬三 (日 鋼)	木原 諄二 (東 大)
	△近藤 嘉一 (鋼 鉄)	藤井 資也 (合 鉄)
境界領域委員会	浅井 滋生 (名 大)	遠藤 孝雄 (横国大)
	○岸 輝雄 (東 大)	河部 義邦 (金材研)
編 集 委 員 会	浅井 滋生 (名 大)	遠藤 孝雄 (横国大)
	森 克巳 (九 大)	木原 諄二 (東 大)
		野田 忠吉 (住 金)
		牧 正志 (京 大)
		森 勉 (東工大)
		八木順一郎 (東北大)
育 成 委 員 会	浅野 鋼一 (山 特)	○遠藤 孝雄 (横国大)
	江本 寛治 (川 鉄)	河部 義邦 (金材研)
	萬谷 志郎 (秋田高専)	藤井 資也 (合 鉄)
国際交流委員会	○富浦 梓 (新日鉄)	木原 諄二 (東 大)
	森 甲一 (愛 知)	堀 珊吉 (鉄 連)
	萬谷 志郎 (秋田高専)	森 勉 (東工大)
研 究 委 員 会	近藤 嘉一 (鋼 鉄)	石井 邦宜 (北 大)
	富浦 梓 (新日鉄)	河部 義邦 (金材研)
	馬越 佑吉 (阪 大)	木原 諄二 (東 大)
		長谷川義彦 (大 同)
		○宮崎 亨 (名工大)
鉄鋼研究振興助成選考委員会		堀 珊吉 (鉄 連)
国際鉄鋼技術委員会	○富浦 梓 (新日鉄)	
鉄鋼技術情報センター運営委員会	○岸 輝雄 (東 大)	藤井 資也 (合 鉄)
		八木順一郎 (東北大)
鉄鋼標準化センター運営委員会	近藤 嘉一 (鋼 鉄)	副島 利行 (神 鋼)
		長谷川義彦 (大 同)
標 準 化 委 員 会		○副島 利行 (神 鋼)
鉄鋼JIS三者委員会		○木原 諄二 (東 大)
		副島 利行 (神 鋼)
鉄鋼標準試料委員会	浅野 鋼一 (山 特)	副島 利行 (神 鋼)

理事 浅野鋼一君 H6.1.20 逝去

2. 監事

H5.3.31第78回通常総会において任期満了監事の改選を行い、川上 正博当選就任。なお、留任は小倉 貞一。

3. 評議員

H5.3.31第78回通常総会において任期満了の評議員の改選を行い、次の者当選就任。
(任期2年120名)

荒木 孝雄	池島 俊雄	池高 聖	石川 明	石野 亨
磯 平一郎	一瀬 英爾	伊藤 慶典	伊藤 雅治	井戸 一朗
井上 正文	今井 卓雄	上杉 年一	上田 仁	上野 朝生
牛山 博美	江見 俊彦	大岡 耕之	大須賀立美	大谷 正康
大橋 正昭	大庭 半次	大山 龍一	岡 宗雄	岡部 雄吉
小口 醇	小原 信二	鍵本 潔	加藤 弘	香取 正守
金井 務	上城 太一	川田 敏郎	川本 信彦	菊地 實
岸田 壽夫	北岡 隆	木下 亨	君嶋 英彦	京極 哲朗
草川 隆次	國岡 計夫	熊谷 直彦	倉重 輝明	栗田 満信
神崎 昌久	甲谷 知勝	小島 浩	小林 一造	小林 俊郎
斎藤 恒夫	斎藤 好弘	斎藤 達	才野 光男	坂尾 弘
佐久間健人	雀部 實	佐野 信雄	佐野 正道	品川 丞
柴田 俊夫	澁谷 悌二	新宮 秀夫	新宮 康男	城野 裕
杉田 清	杉原 弘祥	高井 岩男	田中 良平	塚田 尚史
塚田 浩	濤崎 忍	徳田 昌則	友田 陽	豊田 茂
堂山 昌男	土手 彬	中江 秀雄	中川 一	中川 龍一
仲田 哲朗	中野 修行	中村 為昭	中村 忻治	永井 親久
永田 和宏	南雲 道彦	奈古屋嘉茂	新居 和嘉	西八條 實
布村 成具	瀬津 行雄	萩原 康彦	羽田野道春	蜂谷 整生
羽鳥 幸男	原田 利夫	久松 敬弘	平井 信恒	深見 泰三
福永 秀春	不破 祐	堀川 一男	松野 浩二	丸橋 茂昭
光武 紀芳	宮川 保重	毛利 良一	山内 睦文	山口 正治
山中 卓	山本 全作	山本 俊郎	横井 信司	横川 敏雄
吉川 欣彌	吉田 豊信	吉原 毎文	吉村 精仁	和田 淑弘
(任期1年6名)	今井勇之進	小田 助男	佐藤 忠雄	佐野 幸吉
	田畑新太郎	吉崎 鴻造		

なお、留任の評議員は下記のとおり。

相川賢太郎	青井 舒一	朝位 義照	足立原明文	阿部 芳平
荒木 透	伊木 常世	石黒 隆義	石黒 嘉人	井上 道雄
岩井 彦哉	岩城 正保	岩崎 茂夫	植田 守昭	上村 眞彦
及川 洪	王寺 睦満	大河内春乃	大中 逸雄	大庭 浩
大森 正男	大和田国男	小野 陽一	甲斐 幹	笠原 美三
梶原 太吉	片岡 修	片田 哲也	加藤 健三	加藤 健
神谷 春樹	川合 保治	川崎文一郎	北村 卓夫	北村 恒夫
木村 達也	久能 一郎	久保寺治朗	久米 豊	倉内 憲孝
栗原 康	桑原 達朗	河野 拓夫	小林 和三	斎藤 喜一
佐伯 修	佐伯 達夫	三枝 誠	阪本 英一	三宮 章博
白石 春樹	白松 爾郎	鈴木三千彦	瀬戸 浩蔵	相馬 胤和
田口 昇	竹内 肇	竹内 久彌	館 充	龍野 富雄
舘野 万吉	田中 邦三	田中 義巳	谷川 正	谷口 安祥
玉置 正和	田山 昭	辻川 茂男	寺門 良二	徳永 洋一
飛山 一男	中澤 吉	中村 和生	中村 正久	中山 豊
永井 潤	永野 辰雄	新美 格	新山 英輔	西山 哲
西澤 泰二	根本 實	橋口 隆吉	原 貞夫	平野 治男
弘津 禎彦	日渡 惺朗	藤井 義弘	藤本 一郎	藤原 俊朗
細井 祐三	細木 繁郎	堀田 正之	本田 忠敏	増子 昇
増本 健	松下 幸雄	松田 常美	松原 博義	美坂 佳助
三島 良績	三田村外喜男	三野 重和	向井 楠宏	森 一美
森 省二	盛 利貞	森田善一郎	諸橋 晋六	八木 直彦
八木 靖浩	安江 幹	柳澤 治明	柳澤 忠昭	山鹿 素雄
山城 彬成	山田 浩蔵	山田 孝雄		

評議員 伊木常世君 H6.1.18逝去

4. 支部長

支部名	退任	新任	交代年月日 (理事会承認)
東海	大橋 正昭	藤原 俊朗	H5. 4. 1
		宮崎亨代行	
中国四国	木村 達也	君嶋 英彦	H5. 4. 1
関西	成田 貴一	高井 岩男	H5. 4. 23
北海道	早稲田 孝	大庭 哲也	H5. 7. 30
九州	萬谷 興亜	谷沢 清人	H5.10.17

5. 常務委員

H5. 4. 1 解囁 細木 繁郎 委囁 山本 全作
H5. 4. 23 委囁 小指 軍夫、神崎 昌久
H5. 6. 18 解囁 中川 龍一
H5. 7. 30 解囁 神崎 昌久 委囁 藤原 俊朗

6. 企画委員

H5. 4. 16 委囁 伊藤 慶典

7. 境界領域委員

H5. 2. 28 解囁 志田 善明 委囁 諸石 大司
H5. 3. 31 解囁 富浦 梓
H5. 4. 1 委囁 遠藤 孝雄 委囁 河部 義邦
H5. 6. 1 委囁 山口 正治
H5. 6. 30 解囁 渡辺 馨 委囁 岡本 圭司
H5. 7. 13 委囁 岩崎 邦彦
H5. 7. 31 解囁 槌谷 暢男 委囁 垣生 泰弘
H5.10.31 解囁 竹村 裕 委囁 山田 文雄

8. 編集委員

H5. 3. 31 解囁 田中 淳一
H5. 3. 1 委囁 小指 軍夫
H5. 4. 1 委囁 岡戸 克
H5. 9. 1 委囁 藤井 徹也、丸川 雄浄

9. 育成委員

H5. 3. 10 委囁 郡司 好喜
H5. 4. 21 委囁 村田 哲也
H5. 4. 23 委囁 萬谷 志郎
H5. 7. 1 解囁 宮島 正和 委囁 竹村 裕
H5. 9. 1 委囁 阿部 光延
H5. 11. 9 解囁 竹村 裕 委囁 山田 文雄

10. 国際交流委員

H5. 3. 4 解囁 郡田 和彦 委囁 柳 義親
H5. 9. 29 解囁 野崎 努 委囁 市田 敏郎
H5.12.21 解囁 竹村 裕 委囁 松岡 滋樹

11. 研究委員

H5. 4. 7 解囁 細木 繁郎 委囁 山本 全作
H5. 4. 26 解囁 古林 英一 小指 軍夫
委囁 白石 春樹 西本 昭彦
H5. 9. 17 解囁 伊藤亀太郎 委囁 加藤 弘

12. 鉄鋼研究振興助成金選考委員

H5. 5. 10 解囁 権藤 永 富安維一郎
委囁 杉原 弘祥 塚田 尚志
H5. 9. 6 解囁 松原 博義 委囁 田中 實

13. 国際鉄鋼技術委員

H5.10.29 解囑 竹村 裕 委囑 松岡 滋樹

14. 鉄鋼技術情報センター運営委員

H5.3.19 解囑 郡田 和彦 委囑 柳 義親
H5.4.11 委囑 岸 輝雄、八木順一郎、藤井 資也
H5.5.17 解囑 門司 和夫 委囑 新井 哲三
H5.6.16 解囑 中川 龍一、雀部 實、梅田 高照 布村 成具
坂 公恭、宮田 隆司、小林 和雄、鈴木 繁
中澤 吉、平 忠明、今来 俊郎、新井 哲三
柳 義親、星野 和夫、黒崎 正夫、竹村 裕
鈴木 正敏、鈴木 武和、近藤 嘉一
委囑 雀部 實、川原 正言、齊藤 和男、鈴木 繁
中澤 吉、平 忠明、今来 俊郎、新井 哲三
柳 義親、星野 和夫、竹村 裕、鈴木 正敏
鈴木 武和、近藤 嘉一、白木 大太郎
H5.7.5 解囑 鈴木 武和 委囑 石田 久雄
H5.7.20 解囑 中澤 吉 委囑 荒牧 透
H5.10.28 解囑 竹村 裕 委囑 山田 文雄

15. 鉄鋼標準化センター運営委員

H5.4.23 解囑 荒木 透、光武 紀芳
委囑 副島 利行、長谷川義彦、村田 哲也
H5.7.13 解囑 中澤 吉、武重 賢治
委囑 服部 正幸、半明 正之
H5.7.20 解囑 富安維一郎 委囑 塚田 尚史
H5.7.30 解囑 神崎 昌久 委囑 藤原 俊朗

16. 標準化委員

H5.4.23 解囑 荒木 透 委囑 副島 利行
H5.4.19 解囑 光武 紀芳 委囑 村田 哲也
H5.7.9 解囑 武田 利彦 委囑 石原 和雄
H5.7.13 解囑 中澤 吉 委囑 服部 正幸
H5.7.20 解囑 八杉誠二郎 委囑 森下 昇
H5.10.28 解囑 竹村 裕 委囑 山田 文雄
H5.11.16 解囑 大坪 孝至 委囑 堀 珊吉

17. 鉄鋼JIS三者委員

(鋼材)
H5.3.30 解囑 服部 幹雄、黒木 勝也、大屋 武夫、中家 一弥
八杉誠二郎、濱田 誠巳
H5.6.18 委囑 鳥居 信良、鷺田 吉秀、上津原政則
高木 譲一、加山 英男、森下 昇、奥山 孝司
(分析)
H5.3.31 解囑 服部 幹雄、黒木 勝也、岡野 輝雄
H5.11.26 委囑 高木 譲一、加山 英男、内藤 雅夫

18. 鉄鋼標準試料委員

H5.4.23 委囑 浅野 鋼一、副島 利行
H5.10.25 解囑 成田 貴一 委囑 河村 恒夫

IV. 一般会計による事業

1. 刊行事業

1.1 鉄と鋼 第79年3号～第80年2号、12冊発行。

特集号は(No.3)「圧延における寸法制御と精度向上」、(No.7)「鉄鋼業における最近のセンサー技術」を発行。投稿論文153件(掲載167件1,084頁)、解説等49件(417頁)、現場技術報告53件(209頁)、ISIJ情報ネットワーク593頁、合計2,304頁。

1.2 ISIJ International Vol.33、No.3～Vol.34、No.2、12冊発行。

特集号は(No.6)「Transport Phenomena in Packed Beds」、(No.9)「Surface Modification of Materials」、(Vol.34、No.1)「Physical Metallurgy of Ultralow Carbon Interstitial Free Steels」を発行。投稿論文137件(掲載136件1,014頁)、掲載Review11件(140頁)、合計1,154頁。

1.3 材料とプロセス

第125回(春季)講演大会Vol.6、No.1～No.3ならびに第126回(秋季)講演大会Vol.6、No.4～No.6を発行。

1.4 図書刊行 次の図書17冊を刊行した。

「最近の実用燃焼技術」「熱プラズマの基礎と新しい利用プロセス」「鉄・チタン複合材料の製法と特性」「電磁気力による新しいプロセスの可能性を求めて」「極低炭素鋼板の金属学」「組織と機械的性質データ集」「組織制御と性質」「組織と疲労強度データ集」「日本でチタンの研究はどこまで進んでいるか」「炭酸ガス抑制と製鉄プロセスの未来」「最近のアーキ炉製鉄法の進歩」「コークス製造のための乾留制御」「魅力ある製鉄技術を求めて」「わが国における鉄鋼リサイクルの現状と今後のあり方」「耐熱強靱チタン(疲労WG)」「耐熱強靱チタン(物性WG)」「材料データベースにおける評価モデル」

2. 講演大会事業

2.1 講演大会

2.1.1第125回講演大会 H5.3.31～4.2 横浜国立大学工学部

1) 講演数と会場数 676件、18会場

2) 討論会テーマ ①高炉の高効率操業における原燃料のあり方、②高純度鋼製造技術の現状と今後の展望、③合金鋼継目無鋼管の製造技術の現状と展望、④建設用高引張鋼材の新利用技術、⑤地球に優しい缶用材料、⑥高強度鋼溶接部のSSC

3) 講演大会関連事業

(1)懇親会 H5.3.31 新横浜国際ホテル

参加者417名、(司会)石川 圭介、(挨拶)早稲田 嘉夫金属学会副会長、三好 俊吉本会会長、太田 時男横浜国立大学学長、(乾杯)加藤 健三新名誉会員

(2)ジュニアパーティー H5.4.1 横浜国立大学第二食堂参加者163名

(3)鉄鋼・金属連絡会 H5.4.1 工学部第二会議室

鉄鋼:佐野 信雄委員長、他7名 金属:吉永 日出夫委員長、他8名 第126回(名工大)、第127回(東工大)、第128回(九大)に関する報告

(4)支部長会議 H5.4.1 工学部第二会議室

三好 俊吉会長、他12名 支部の規則・資料・区割等について

(5)鉄鋼・金属幹部打合せ会 H5.4.2 工学部第二会議室

鉄鋼:三好 俊吉会長、他4名 金属:早稲田 嘉夫副会長、他6名 支部の運営方法・区割、USA-Japan Joint Meeting、講演大会の開催方法等

2.1.2第126回講演大会 H5.10.16～18 名古屋工業大学御器所キャンパス

1)講演数と会場数 824件、20会場

2)討論会テーマ等 ①高炉下部領域における物理的・化学的現象の解明と制御、②スクラップ利用製鋼プロセスの現状と今後の展望、③制御理論と鉄鋼プロセスへの応用、④鉄鋼中非金属元素分析の現状と課題、⑤熱延及び厚板圧延における表面疵防止技術、⑥高機能ブレード鋼板、⑦高Crフェライト系耐熱鋼の研究動向、⑧ベイナイト調査研究部会報告会、⑨自動車用材料シンポジウム「高強度化の限界を探る」

3)講演大会関連行事

(1)懇親会 H5.10.16 ホテル名古屋キャッスル

参加者402名、(司会)浅井 滋生、(挨拶)三好 俊吉本会会長 大橋 正昭金属学会会長、吉田 彌智名古屋工業大学学長、(乾杯)井上 道雄名誉会員

(2)ISIJオープンパーティー H5.10.17 名古屋工業大学学生会館生協食堂 参加者162名

(3)鉄鋼・金属連絡会 H5.10.17 名古屋工業大学金属会議室

鉄鋼:小指 軍夫編集委員長、他7名 金属:吉永 日出夫分科会委員長、他6名

- 第129回(東大・創立80周年)、130回(関西)に関する報告、検討
- (4)支部長会議 H5.10.17 名古屋工業大学金属会議室
三好 俊吉会長、他13名 支部規則、運営方法、区割、会員団体勧誘等について
- (5)鉄鋼・金属幹部打合せ会 H5.10.18 名古屋工業大学金属会議室
鉄鋼：三好 俊吉会長、他5名 金属：大橋 正昭金属学会会長、他6名 金属・鉄鋼協議会の設置について、金属、鉄鋼、資源・素材の連携について

2.1.3 分野別講演件数

	第125回(春)	第126回(秋)
高温・プロセス・基盤技術	31	—
製鉄・還元	100	93
製鋼・製錬	72	99
鑄造・凝固	48	84
計測・制御・システム技術	44	49
分析評価・解析技術	14	20
加工・鋼構造	109	132
表面技術	50	58
萌芽・境界領域	44	74
材料の組織・性質	178	223
合計	690	832

2.2 特別講演会

(1)湯川メモリアルレクチャー(H5.3.31)

「The European steel industry after the break down of the communist power bloc」新名誉会員 Prof. Alfred Randak(元 Krupp 鉄鋼会社冶金技術担当重役)

「Surface phenomena: a cornerstone of iron and steelmaking process」新名誉会員 Mr. Michael Olette(元 IRSID 副所長)

(2)渡辺義介賞受賞記念講演(H5.3.31)

「わが国の製鋼技術の進歩とわたし」栗田 満信

(3)西山賞受賞記念講演(H5.3.31)

「鉄における粒界破壊と微量元素および合金元素の効果」木村 宏

(4)浅田賞受賞記念講演(H5.10.16)

「自動車における構造用鋼の将来」小島 久義
「熱処理設備の現状と課題」阪野 喬

2.3 講演大会見学会

2.3.1工場見学会(H5.10.19)

- 1班 新日本製鐵名古屋製鉄所、住友軽金属名古屋製造所
2班 トヨタ自動車組立工場、ファインセラミックスセンター

2.3.2婦人見学会(H5.10.17)

徳川美術館、名古屋港、ポートビル、名古屋港水族館

3. 育成事業

3.1 知的財活用

鉄鋼工学叢書第1号として松島 巖(NKK)著「鉄鋼の腐食」を発行を計画した。

3.2 西山記念技術講座

- (1)第148・149回「圧延におけるトライボロジー —潤滑と摩耗に関する研究の動向—

(東京・JAホール)H5.5.17~18 聴講者173人

(広島・商工会議所)H5.6.2~3 聴講者115人

- (2)第150回「鉄鋼業における最新の計測・制御技術」

(東京・JAホール)H5.11.25~26 聴講者182人

- (3)第151・152回「ステンレス鋼の製造・利用技術の進歩 —その発展をめざして—

(東京・JAホール)H6.2.7~8 聴講者198人

(大阪・科学技術センターホール)H6.2.24~25 聴講者165人

3.3 白石記念講座

- (1)第24回「地球環境・エネルギー問題の現状と将来(地球にやさしい鉄鋼業を目指して)」

(東京・化学会館ホール)H5.6.28 聴講者172人

- (2)第25回「社会を変える地下空間利用」

(東京・JA第1会議室)H5.11.30 聴講者81人

3.4 鉄鋼工学セミナー

第19回鉄鋼工学セミナー

会期 H5.7.24~30

場所 宮城県蔵王町 蔵王ハイツ

受講生 製鉄コース21名、製鋼コース41名、材料コース109名

計 171名

3.5 鉄鋼工学アドバンストセミナー

会期 H5.12.15~17

場所 新日鐵新山谷寮

受講生 製鉄コース6名、製鋼コース5名、材料コース(1)7名、材料コース(2)4名

3.6 学生見学会

第8回の理工学系学生のための研究所・製鉄所の見学会を3月15~18日の4日間全国20会場で実施。参加者は727名。

3.7 ものづくり教育を考える会

高校理数系教育担当教諭の製鉄所見学と鉄鋼技術者・研究者との懇談会を4支部(東北、東海、中国・四国、九州)で実施。総参加者数48名。

3.8 外国人研究員奨学制度

事業の詳細を決定した。

3.9 他学協会との共催、協賛、後援による事業

共催11件、協賛121件、後援7件、計139件。

4. 国際交流事業

4.1 材料設計およびプロセス工学へのコンピューター利用に関する国際会議

H5.9.6-9(組織委員長：新居 和嘉)東京・日本都市センター、講演総数は76件、内開会講演54件、基調講演16件(日本9、海外7)参加者数日本95名、スウェーデン、韓国、中国等12ヶ国35名計130名、3会場に分かれて実施。

4.2 二国間シンポジウム

第8回日本・ドイツセミナー

H5.10.6~7 仙台市・東北大学工学部青葉記念会館

講演件数 日本側11件 ドイツ側13件 計24件

参加者数 日本側69名 ドイツ側15名 計84名

4.3 国際会議、二国間シンポジウム、小規模国際会議準備状況

1 第1回世界製鉄会議(The First International Congress on Science and Technology of Ironmaking-ICSTI' 94)

期日/場所/組織委員会委員長 H6.6.14-17/仙台国際センター/徳田 昌則

準備状況 H5.12月に3rd Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。126件の講演発表予定

2 材料電磁プロセス国際会議(International Symposium on Electromagnetic Processing on Materials-EPM' 94)

期日/場所/組織委員会委員長 H6.10.25-28/名古屋大学シンポジオン/浅井 滋生

準備状況 H5.11月に2nd Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。論文を募集

3 第4回高濃度窒素鋼国際会議(4th International Conference on High Nitrogen Steels-HNS' 95)	
期日/場所/組織委員会委員長	H7.9.26-29/ホリデーイン京都/菊池 實
準備状況	H5.12月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。論文を募集
4 第1回世界製鋼会議(The First Congress on Science and Technology of Ironmaking-ICS' 96)	
期日/場所/組織委員会委員長	H8.4.22-24/千葉市・日本コンベンションセンター(幕張メッセ)/佐野 信雄
準備状況	H6.1月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。論文を募集
5 第2回日本・カナダシンポジウム(The Second Japan-Canada Symposium)	
期日/場所/組織委員会委員長	H6.8.22-25/カナダ・トロント市/佐野 信雄
準備状況	日本側論文12件の取りまとめを行い先方に提示
6 小規模国際会議、IF鋼の金属学国際フォーラム(International Forum for Physical Metallurgy of IF Steel-IF IFS' 94)	
期日/場所/組織委員会委員長	H6.5.10-11/東京アルカディア市ヶ谷私学会館 /佐久間 健人
準備状況	H5.8月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。
7 小規模国際会議、低炭素高強度鋼の組織に関する国際シンポジウム(International Symposium on New Aspects of Microstructures in Modern Low Carbon High Strength Steels-LCS' 94)	
期日/場所/組織委員会委員長	H6.11.29-12.1/東京大学山上会館/荒木 透
準備状況	H5.8月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布。論文を募集

4.4 その他の国際交流

本会への主要来訪者、海外への派遣者は次のとおり。

- H5.3.31-4.2第125回講演大会でS.M.Kim,K.T.Kim,S.J.Lee,S.K.Noh,H.Y.Kim, J.C.Shin,鄭 又暢, S.H.Park,Y.H.Kim(以上RIST),M.McCarthy,O.L.He(以上BHP Research), F.Kamei(BHP), D.J.Diederich(USS/KOBE), S.Sun(CSIRO), S.S.Lian(National Taiwan Univ.), 楊 錦成(中国台湾工研院)らが講演発表。
- H5.5.11 世界金属・材料関係学協会専務理事会議(London)で国際会議の調整。
- H5.6.1-17 共同研究会電気が部会で欧州に調査団(団長:石原 弘

二他17名)を派遣し、先進国の電気がおよびスラグ、ダスト、環境、省力、スクラップ等の調査。

- H5.10.16-18 第126回講演大会でT.H.Choi,南 在福, 姜 基鳳,(以上RIST),J.M.Steiler,J.P.Birat(以上IRSID),L.K.Ehle(Fuchs),E.Bedolla(Univ.Michoacana),M.Wolf(Montanuniv.),M.B.Moon(Dong BuSteel)らが講演発表。
- H5.11.10 世界金属・材料関係学協会専務理事会議(Dusseldorf)で、国際会議の調整および若人を鉄鋼業にひきつける経験の交流。
- H5.9.1 ~10.22 中華人民共和国冶金工業部情報標準研究総所廖 隆国を日本における情報処理の研究生として受入れた。

5. 技術調査・研究事業

共同研究会の運輸部会が物流部会と名称変更。基礎研究会、特定基礎共各2部会が終了。新たに基礎研究会で2部会、特基研究会で4部会が発足。

会議名	共通・重点テーマ<開催日, 開催地>
5.1 共同研究会 運営委員会 総務幹事会	・共同研究会の運営方針の決定 ・共同研究会の運営に関する情報交換
製鉄部会	・高炉におけるセンサー情報の活用と今後の課題<5月新日鉄・八幡> ・資源リサイクル観点から見た原料の多様化対応技術、製鉄技術検討会報告<11月NKK・福山>
コークス部会	・コークスの品質管理について<6月日新・呉> ・コークス工場の自動化・省力化と人材育成について<11月新日鉄・君津>
製鋼部会	・タンディッシュメタラジの現状と今後の課題<3月NKK・福山> ・モールド内凝固制御技術の現状と铸片品質改善効果<9月新日鉄・名古屋>
電気炉部会	・炉外精錬の操業と品質<4月宇部スチール> ・主原料配合の操業に及ぼす影響<10月北越メタル>
特殊鋼部会	・耐火物の改善(精錬炉, 取鍋)<4月川鉄・千葉> ・ステンレス鋼C C 铸片の表面性状改善<9月大平洋・八戸>
鋼鉄部会 分塊分科会 厚板分科会 ホットストリップ分科会 コールドストリップ分科会	・合理化計画Part II /コスト対策、在庫管理<5月NKK・京浜, 12月川鉄・水島> ・高精度圧延技術、直行率Part III<5月新日鉄・君津, 11月住金・鹿島> ・直行率向上、自動化および要員合理化<6月住金・鹿島, 11月川鉄・水島> ・品質保証、設備の新設・改造<6月新日鉄・広畑, 12月神鋼・加古川>
亜鉛めっき鋼鉄部会	・環境、安全、防災<6月住金・鹿島> ・めっき機器と亜鉛付着量制御<H6.2月・日新・堺>
条鋼部会 大形分科会	・最近の設備改善状況と今後の計画<6月トピー工業・豊橋> ・小ロット化、実態と対応策について<11月合同製鉄・大阪>

会議名	共通・重点テーマ<開催日, 開催地>
中小形分科会 線材分科会	・製造コスト、要員合理化<6月トア・仙台> ・組替・ロール管理について、生産管理システムについて<11月川鉄・水島> ・品質保証体制について<6月新日鉄・君津> ・高速圧延について<11月神鋼・加古川>
鋼管部会 継目無鋼管分科会 溶接鋼管分科会 高級ラインパイプ専門委員会	・鋼管の仕様処理業務について<5月住金・和歌山> ・HLP専門委員会活動報告(破壊、腐食両WG)<10月東芝鋼管、日新鋼管・下妻> ・熱押設備の品質に及ぼす保守管理、冷間加工技術と設備の保守管理、継目無鋼管の内、外表面肌および疵について、精整設備について<11月NKK・本社> ・鍛接管ミル最近の生産性向上対策と自動化推進状況、ERWミル生産性現状とその対策、短納期・生産変動対応について(SP)、UOEミルの生産向上対策<12月住金・本社> ・<破壊>: シェブロンノッチDWTIの高靱性ラインパイプ材への適用<5回/年> ・<腐食>: 高圧還流サワーガス環境下のラインパイプにおける硫化物心力われの評価に関する研究<5回/年>
圧延理論部会	・薄板、厚板、条鋼圧延、鋼管圧延、成形等および関連基礎技術に関するもの<6月神鋼・神戸総合研, 11月住金・鹿島>
熱経済技術部会	・統一課題「プロセス開発のための熱・流体測定解析技術」他<5月 日新・呉> ・統一課題「製鋼プロセス溶鋼温度の制御と温度降下防止技術」他<11月NKK・京浜>
耐火物部会	・取鍋耐火物、補修技術・リサイクル<6月神鋼・加古川> ・脱ガス2次精錬、操業技術と耐火物寿命<11月新日鉄・大分>
制御技術部会	・EWS/パソコンの制御システムへの応用の現状と今後の課題<5月新日鉄・八幡> ・ソフト開発・保全の実態調査と今後の動向<10月日立・大みか> ・薄鋼板光学式表面疵検査装置の現状課題と提言<12月NKK・福山>
品質管理部会 機械試験小委員会 非破壊検査小委員会	・技術サービス市場調査の中長期品質改善計画および新製品開発への関わり方<7月トピー工業・豊橋> ・スリム化、シンプル化、迅速化に向けての品質管理体制のあり方<12月川鉄・千葉> ・標準化WG、検査制度WGの活動報告、自動化、能率化事例発表<6月住金・鹿島, 11月新日鉄・君津> ・ERW,CW,スパオラルおよびUOE関係特別報告、第40回記念行事<3月神鋼, 神戸, 10月住金・鹿島>
物流部会	・小委員会報告「鋼材輸出船積みの現状と今後の方向」, 自由議題12件<11月新日鉄・君津>
鉄鋼分析部会 化学分析分科会 機器分析分科会 表面分析小委員会 析出物分析小委員会 鋼中微量炭素定量法研究小委員会	・部会活動経過<5月NKK・京浜> ・各WG活動状況報告<5月東京, 10月NKK・京浜> ・各WG活動状況報告<5月東京, 10月NKK・京浜> ・各WG(AES,XPS,SIMS,スパッタリング)共同実験経過報告<3回/年> ・共同実験経過報告(①2-1/4Cr-1Mo鋼の時効析出物分析②Nb-Ti複合添加低合金高張力鋼における析出物分析)<3回/年> ・高燃法の基礎的検討<2回/年>
設備技術部会 銑鋼設備分科会 圧延設備分科会	・連続鋳造設備の自動化の現状と今後の課題、製銑設備(原料、焼結)の老朽更新と延命技術<5月NKK・京浜, 11月IHI・横浜> ・設備保全工事作業の快適化、コスト低減を中心とした最近の潤滑管理技術の動向<5月川鉄・水島, 11月住金・鹿島>
調査部会	・「わが国における鉄鋼リサイクルの現状と今後のあり方」の報告書発行

会議名	研究テーマ(活動内容)
5.2 特基研究会 運営委員会 材料電磁プロセンシング部会 コークス製造のための乾留制御部会 変形特性の予測と制御部会 鉄鋼の初期凝固研究部会 高純度Fe-Cr合金研究部会 鉄鋼の表面高機能部会	・各部会の活動報告と活動計画及び予算について ・部会報告書「電磁気力による新しいプロセンシングの可能性を求めて」作成、シンポジウム開催(5月) ・報告書作成とシンポジウムの開催(10月) ・変形特性の予測と制御に関する研究発表、最終報告書作成 ・CC,SC鋳片表面性状を制御し、向上させるための初期凝固現象の解明、研究発表件数14件(凝固シェルの形成、表面欠陥とその防止技術、凝固シェルの変形、NNS連鋳材の表面状況と初期凝固機構の解析)・・・重点活動事項 ・超高純度合金溶製装置が完成、部会、WGを各2回開催し、高・中純度共通試料の不純物元素の影響を明確化。 ・気相コーティングによる鉄鋼表面改質層の特性に関する基礎研究、研究発表件数21件(コーティング物質、欠陥と耐食性、膜欠陥検出法、膜欠陥低減策)・・・重点活動事項

会議名	研究テーマ(活動内容)
ステンレス鋼の耐候性部会 表面処理鋼板の界面化合物部会 循環性元素分離部会 鉄鋼の高強度化部会 鉄鋼スラグの基礎と応用部会 4流体の移動現象部会 高強度鋼の遅れ破壊部会 スクラップ起因不純物元素の鋼材への影響部会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表11件、暴露試験作業部会の打ち合わせ ・皮膜/鋼板界面の構造と結晶方位関係、皮膜及び下地鋼板の塑性変形・破壊挙動の関係、電気めっき鋼板における電析メカニズムを重点的に研究 ・蒸発、湿式、フラックス等による循環性元素分離の研究発表、中間報告会開催 ・鉄鋼の高強度化に関する研究発表 ・鉄鋼スラグの利用現況の把握と問題点の抽出 ・①高炉内炉芯部の伝熱現象の検討②充填層中の粉体蓄積に関するシミュレーションモデルの作成 ・過去の研究内容を調査した上で、研究内容を5項目に分類して課題研究計画を立案 ・研究テーマ整理とグループ分け
5.3 基礎研究会 運営委員会 熱プラズマ研究部会 ベイナイト調査研究部会 VAMAS材料評価研究部会 耐熱強靱チタン研究部会 組織制御と性質研究部会 極低炭素鋼板研究部会 圧延ロール研究部会 ミクロ組織センサー研究部会 鉄鋼業における炭素ガス抑制対策研究部会 耐火物の組織評価研究部会 高強度鋼板の疲労強度向上研究部会 鋼中介在物による組織と材質の制御部会 ネットネストシティ研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の活動報告と活動計画及び予算について ・部会報告書「熱プラズマの基礎と新しい利用プロセス」作成、シンポジウム開催(4月) ・最終報告会(10月)開催、最終報告書刊行予定(H6.4月) ・クリープ破断寿命データと疲労寿命データ評価モデルのソフトウェア開発 ・部会報告書「日本でチタン研究開発はどこまで進んでいるか」作成、物性・疲労両WG報告書作成、シンポジウム開催(7月) ・組織制御と性質—先進プロセスによる極限性能の追求—部会報告書の刊行(疲労強度及び機械的性質の各データ集共3分冊) ・部会活動方向書の発行(「極低炭素鋼の金属学」:8月)、小規模国際会議の準備体制作り(3-5月) ・熱間圧延ロールに関する文献調査、ステンレス冷間圧延光沢度推進システム確立 ・ミクロ組織(粒径)の各種非破壊計測における精度評価と影響因子の抽出 ・報告書作成とシンポジウムの開催(7月) ・耐火物の組織評価において注目すべき要因の抽出。 H6年度からは特基研究会として更に研究を進展させる ・溶接継手の疲労強度を低下させるために、冶金学的観点から実験方法を策定 ・文献調査方法と結果の討議 ・ネットネスト構造の研究とモデル作成

5.4 日本金属学会との共同研究

(1) 金属間化合物共同研究会

日本金属学会を幹事学会とする8学協会からなる共同研究会で、研究テーマ「金属間化合物—新高温構造材料としての可能性」について、本年度は第4回「金属間化合物の物性—理論と実験の接点を探る—」(5月7日)、第5回「金属間化合物の強度と破壊の基礎」(6月7日)、第6回「金属間化合物のプロセッシング」(10月25日)、第7回「先端高温構造材料の研究動向」(12月17日)のテーマで研究会を4回開催。

(2) 合金状態図共同研究会

日本金属学会を幹事学会とする、資源・素材学会、科学技術庁および本会との共同研究会で、合金状態図の研究・編集を目的として、平成5年度には、合金状態図国際委員会(APDIC)および第22回計算状態図国際会議(CALPHAD)への参加、2回の研究会を開催し、特別講演1件、研究発表10件。

6. 技術情報事業

6.1 図書・資料事業

6.1.1 図書の種類と冊数

単行本 2,800冊 和雑誌 17,000冊 洋雑誌 14,500冊 プロシーディングス 1,800冊 学術振興会製鋼第19委員会資料 330製本 学術振興会製鉄第54委員会資料 80製本

6.1.2 情報サービス

- (1)「鉄と鋼」(Vol.78,1992年)「材料とプロセス」(Vol.5,1992年)のバックナンバーロールフィルムの頒布サービスを会員各社14事業所に、「ISIJ International」(Vol.32,1992年)を会員各社7事業所に頒布。
- (2)共同研究会資料のマイクロ化(1993年度分)と会員各社27事業所に頒

布。またそれに付随して、共同研究会資料索引誌を会員各社41事業所に頒布。

- (3)学術振興会製鋼第19委員会・製鉄第54委員会資料(但し、3年前平成3年度開催分)マイクロ化、会員各社15事業所に頒布。
- (4)「国内学協会主催会議案内」を毎月発行、会員各社8事業所へ頒布。
- (5)「国際会議資料案内」を毎月発行、会員各社105事業所に配布。

6.2 情報業務事業

JICSTの科学技術文献データベースへのインプット協力事業実施。

- (1)抄録件数4,274件
- (2)校閲件数5,636件

6.3 著作物等の頒布

本会刊行物頒布業務ならびに本会ロゴ製品を頒布。

7. 標準化事業

標準化活動の一層の国際化推進、ユーザーの立場を重視した規格化、新技術・新材料の標準化、効率的標準化活動の推進を4本柱とする鉄鋼標準化事業推進中長期計画に基づき、鉄鋼標準化センター運営委員会、標準化委員会、鉄鋼標準試料委員会及び鉄鋼JIS三者委員会において標準化活動を実施。なお、標準化活動における世界のリーダーを目指すとともに標準化業務の活性化による社会的貢献と効率化という観点から協会と鉄連の標準化事業を一本化するとともにその組織・運営を鉄連に委ねることに決定し、標準化業務検討協議会が発足。

7.1 標準規格作成事業

JISの5年見直し、JISとISOの同時見直しの検討及びJISの積極的な廃止検討、JISとISO整合性調査、ISO規格原案(DIS,CD)の審議及び日本コメントの作成などの活動を標準化委員会傘下12の分科会で実施。なお、SI単位小委員会は活動を終了したため廃止。

7.1.1 国内規格審議作成活動

(1) JISの見直し及び整合性の調査

鋼材関係では機械構造用炭素鋼鋼材など28規格、検査通則1規格、試験・分析関係では金属材料引張試験片など15規格、計43規格について改正・確認・廃止の検討を実施。なお対応ISO規格のある38規格については規定項目・品質特性などについて整合性の調査を実施。

(2) 新規及び改正原案の作成

新規は、建築構造用鋼材1規格、改正は、ほうろう用脱炭鋼板及び鋼帯、圧力配管用炭素鋼鋼管など12規格、金属材料曲げ試験片、蛍光X線分析方法など試験・分析7規格、合計20規格のJIS改正原案を作成。

(3) 規格作成運用業務活動

JIS及びISO規格の検討に際し、必要な情報の収集、維持管理、提供サービスをタイムリーに行える情報一元管理体制の整備。JISの発案から最終原案を工業技術院に提出するまでの規格化業務をマニュアル化したJIS作成業務手順書の作成。ISO規格に規定している機械試験用供試材の採取位置の日本意見(幅方向1/4,厚さ方向1/4の位置)をISO規格改正案に反映させるためのデータ及び資料の整備。ユーザの意見を反映させるためJIS試験法の関係団体へのアンケート調査などを実施。

7.1.2 ISO規格審議活動

(1) 定期見直し及びCD, DISの審議

H5年末に受理したISO/N文書332件(TC5:5件,TC17:183件,TC67:70件,TC164:74件)について以下を審議決定。

①定期見直し対象の28件のISO規格を審議し、改正7件、確認20件、棄権1件の回答。

②ISO規格原案(CD:14件,DIS:19件)への投票、合わせて日本コメントを提出。

(2) ISO国際会議への出席

TC17関係8、TC67関係14、TC164関係4等、次に記す合計26のISO国際会議に延57名の日本代表を派遣して国際規格原案に日本意見を反映。

①TC17関係：EC,SC1/WG,SC4,SC7,SC11,SC12,SC19,SC19/WG1

②TC67関係：TC67,WG2,AG3,SC1,SC5,SC5/WG1,SC5/WG2,SC5/WG3

③TC164関係：TC164,SC1,SC2,SC4P

7.1.3 鉄鋼JIS三者委員会

本委員会は大学・研究所などの中立者、生産者及び使用者の三者が適正な比率で構成。H5年度工業技術院からの見直し調査委託を受けJIS G0551(鋼のオーステナイト結晶粒度試験方法)外42規格の調査検討。および鋼管など14規格改正原案を審議議決し、H6年2月工業技術院へ答申。

7.2 ISO幹事国事業

7.2.1 ISO/TC17幹事国業務

(1) TC17(Steel)内規格作成状況

H5年度に発行したISO規格は9件でほぼ例年並み。また5年見直しは18規格について実施し、改訂1件、確認17件の見直し。

(2) 重点事項の処理状況

次に記す当面の重点課題につき、TC17/EC会議(H5年6月、パリ)へ方針または改善策を幹事国として提案、ほぼメンバーの支持を獲得。

①規格作成の迅速化

現状分析に基づく改善策および製品規格作成のガイドの提案。

②戦略的業務指針の見直し

①の提言および将来作業項目や5年見直しに対する考え方の提言。またウィーン協定実行促進の取り込み。

③ウィーン協定実行促進

促進のためのTC17内ガイドを提案。

④ISO 9000の鉄鋼ガイド

受審時の審査内容の統一を意図したガイドを提案。しかし当該規格の改訂の動きを今しばらく見ることに、TC17事務局としては

担当のTC176とリエゾンを結び情報フォロー中。

⑤総会およびアドバイザーグループ(AG)会議の今後の運営

極力2つの会議を同時期に開催し、従来の1.5年毎の開催から2~3年毎に変更。またホスト国の経費負担を減らすため会議はビジネスライクにやることを申し合わせ。

(3) ISO/TC17/SC活動への支援

新たにTC17/SC17(線材、線)の幹事国を引き受けた中国から業務指導の要請があり担当者が来日、3日間にわたり講義等実施。

(4) 欧州地域標準化活動との連携。

ECISS中央事務局との情報交換の強化およびISO中央事務局やBISPA(英国鉄鋼業協会)を通じて欧州で作成中または作成した規格の入手ルートを確立。

7.2.2 ISO/TC17/SC1幹事国業務

(1) ISO/TC17/SC1 規格作成進捗状況

2件のISOの発行。4件のDISの登録。8件のWGほか3件のad hoc, study groupが活動中。

①ISO規格の発行。

ISO 10697-2 全カルシウム原子吸光度法(1994-02)
ISO 10702 窒素-蒸留滴定法(1993-07-01)

②DISの登録。

DIS 10278 マンガン-プラズマ分光法(1994-02)
DTR 10719 遊離炭素-燃焼赤外線吸収法(1993-12)
DIS 4941 モリブデン-吸光光度法(1993-09)
DIS 439 けい素-重量法(1993-02)

③第15回ISO/TC17/SC1会議の開催(1994-06-07/10 於 神戸)に向けて下記作業項目の国際共同実験の遂行とWDの作成。

WG 32 ニッケル、銅、コバルト-プラズマ分光法
WG 33 モリブデン、ニオブ、タングステン-プラズマ分光法
WG 34 微量ほう素-吸光光度法
WG 35 微量ほう素-プラズマ分光法
WG 36 高含有硫黄-燃焼赤外線吸収法
CD 10720 窒素-融解熱伝導率法
CD 11652 コバルト-原子吸光度法
CD 11653 コバルト-電位差滴定法
ad hoc group 1 微量炭素-抵抗炉燃焼赤外線吸収法
ad hoc group 2 蛍光X線分析法-化学物質での検量線作成法

英国コンビナーの都合により進展無し。
Study group 日常作業分析法-発光分光法、蛍光X線分析法
ECISS/TC20(欧州鉄鋼分析規格作成委員会)がワーキンググループを結成して予備調査を開始。その原案をISOに取り込む方向で検討中。
日本もワーキンググループには参加。

(2) 他TC/SCとの共同作業による規格作成作業の継続。

Joint WG 分析機器ガイドライン
Joint WG サンプリング (ISO 377-2の改訂)

(3) 欧米の規格作成委員会とのliaison 強化

欧州 ECISS/TC20委員会(1993-04)及び米 ASTM E01委員会(1993-05)への招待出席。

(4) ICASI(国際鉄鋼分析委員会)活動

情報誌(ICASI Information Bulletin)を2回/年事務局が発行。国際熟練分析者の減少を防止し数少ない熟練分析者を国際的に組織して共同実験や標準物質の認証値決定実験を国際的に行えるようにするための原案を事務局が作成、各国関連部門に回付。

7.2.3 ISO/TC67/SC5幹事国業務

(1) ISO規格作成進捗状況

①Fast track procedureにより規格2件を発行

ISO 10405(API RP 5C1) 油井管の使用上の注意事項
ISO 10422(API Spec 5B) ねじの検査

②DIS 11960(API Spec 5CT) ケーシング、チュービングのDIS投票を完了

し、修正テキストをISO中央事務局へ提出。CD11961(API Spec5D)ドリルパイプについてPメンバーに投票を依頼し、今後の取扱を決定。

③下記2件につきWG2,WG3にて原案作成中

WD 13679(API RP 5C5) 継手性能評価試験方法
WD 13680(API規格該当なし) 耐食性油井管

(2)ISO/TC67/SC5第3回国際会議の開催

1993-09-20/21(於デュセルドルフ)Pメンバー16カ国の内10カ国23名が出席。
ISO 10422及びDIS 11960の改正の進め方、13Cr鋼油井管及びツールジョイント付きドリルパイプの規格化等各WGの問題点の解決と各国意見調整に大きな成果。

(3)CEN(欧州標準化委員会)との関係

ウィーン協定に基づきCENの要望71件の規格作成をISO/TC67で引受けを決定。この71件中5件をTC67/SC5が担当。

7.3 鉄鋼標準試料事業

(1)鉄鋼標準試料の製造状況

新製品：9品種、更新品：13品種、分析中：20品種。

①微量元素シリーズA 機器分析用(8種1組) —機器分析装置の極微量元素定量用検量線作成に使用。

②極微量炭素定量専用鋼(1種類—C 5 ppm)

③新製品開発中[極微量炭素定量専用鋼(3種)]

(2)頒布価格の改訂(11月発送分から)

今後に備えて品種統合、在庫縮小、入手困難素材対策などを検討中

(3)委員会発足40周年行事の推進

技術報告書の作成(執筆依頼中)

(4)委員会内規細則の改訂(案文作成中)

(5)国際カタログの作成(案文作成中)

(6)国際化の推進

①中国との交流実験開始(第1回目の実験終了)

②ISO/REMCO Guideの受入れ態勢の準備

貢献]

・倉澤 直則(株)双文社印刷所「会誌『鉄と鋼』印刷業務を通じての学会事業への貢献」

(7)渡辺義介記念賞

・大泉 治喜(株)神戸製鋼所「鉄鋼生産における品質保証体制の確立および素材製造技術の改善」

・奥村 信義 新日本製鐵(株)「厚板・熱延製品の製造技術、品質・工程管理技術の向上および新商品の開発」

・彼島 秀雄 新日本製鐵(株)「製鉄技術の向上」

・工藤 和也 新日本製鐵(株)「製鋼設備ならびに精錬技術の進歩発展」

・黒田 浩一 日本鋼管(株)「製鉄技術の進歩発展」

・小谷野敬之 日本鋼管(株)「製鋼技術の進歩発展」

・塩飽 潔 日本高周波鋼業(株)「高級特殊鋼条鋼材の製造と品質保証技術の進歩と発展」

・神馬 照正 日本鋼管(株)「冷延・表面処理技術の進歩発展」

・杉原 弘祥(株)中山製鋼所「製鋼分野における新技術の開発と高効率操業の確立」

・鈴木三千彦 愛知製鋼(株)「高合金特殊鋼材の開発とその応用技術への貢献」

・高橋 市朗 住友金属工業(株)「ステンレス鋼および高合金の製造技術の開発・発展」

・高橋 國展 山陽特殊製鋼(株)「高合金鋼継目無鋼管の製造管理技術の確立」

・塚本 行 新日本製鐵(株)「自動車用高機能鋼材の商品化と市場開拓」

・中井 俊次 日本鋼管(株)「鋼管製造技術の進歩発展」

・中村 豊之(株)神戸製鋼所「薄板製造技術の進歩と発展」

・早瀬 鎌一 川崎製鉄(株)「製鉄技術および製鉄所エネルギー有効活用技術の進歩・発展」

・姫田 昌孝 新日本製鐵(株)「製鉄技術の開発と発展向上」

・藤田 通孝 住友金属工業(株)「条鋼分野における高機能製品と二・三次加工設備の開発・実用化」

・三宅 祐史 川崎製鉄(株)「薄鋼板製造技術および設備管理技術の進歩発展」

・宮島 正和 日新製鋼(株)「製鉄・製鋼技術の向上発展」

・三芳 純 川崎製鉄(株)「鋼板製造技術の発展向上」

・矢島 忠正 大同特殊鋼(株)「わが国鉄鋼業、特に特殊鋼製鋼技術の進歩発達」

・早稲田 孝 新日本製鐵(株)「圧延技術、特に高級特殊鋼棒線圧延技術の進歩発展と新製品の開発」

(8)西山記念賞

・秋山俊一郎 住友金属工業(株)「高耐食、高耐熱ステンレス鋼の開発研究」

・阿高 松男 新日本製鐵(株)「鉄鋼製品の圧延プロセスに関する研究」

・岩瀬 正則 京都大学「溶鉄・溶鋼—スラグ間反応の熱力学と成分センサー開発に関する研究」

・梅本 実 豊橋技術科学大学「鉄鋼材料の相変態と組織制御に関する研究」

・加藤 雅治 東京工業大学「金属材料の相変態と力学的性質に関する基礎研究」

・小林 尚 新日本製鐵(株)「鉄鋼材料の表面・界面挙動に関する研究」

・斎藤 忠(株)神戸製鋼所「高品質鋼の製鋼プロセスに関する研究開発」

・平 忠明 日本鋼管(株)「大径溶接鋼管の製造法に関する研究と高性能鋼管の開発」

・竹内 宥公 大同特殊鋼(株)「溶接技術、溶接材料、溶接機器に関する研究開発」

V. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業

1.1 表彰

1.1.1 H5.3.31第78回通常総会表彰式。

(1)渡辺義介賞

栗田 満信 住友金属工業(株)「わが国鉄鋼業の進歩・発展、特に転炉製鋼技術およびステンレス事業の発展向上」

(2)西山賞

木村 宏 東北大学名誉教授「高純度鉄およびその合金の機械的性質の研究」

(3)服部賞

・西崎 允(株)神戸製鋼所「一貫製鉄所における管理システムおよび鉄鋼製造技術の進歩発展」

・山田 孝雄 川崎製鉄(株)「製鉄技術の進歩発達および海外鉄鋼技術発展への貢献」

(4)香村賞

・川崎文一郎 新日本製鐵(株)「薄鋼板および表面処理鋼板製造技術の進歩発展と超大型一貫製鉄所運営体制の確立」

・蜂谷 整生 日新製鋼(株)「熱延技術の発展と鉄鋼生産の近代化」

(5)渡辺三郎賞

・能丸 勇 愛知製鋼(株)「特殊鋼製造技術における品質管理体制の確立」

・長谷川義彦 大同特殊鋼(株)「特殊鋼製造技術の進歩発展」

(6)野呂賞

・大橋 延夫 川鉄テクノロジー(株)「国際交流、編集事業等への

- ・竹之内朋夫 (株)日本製鋼所「高品質大型鍛造鋼塊の製造技術の確立」
- ・谷口 滋次 大阪大学「高温酸化スケールの保護特性および還元ペレットの強度に関する研究」
- ・角山 浩三 川崎製鉄(株)「鋼の表面分析法の開発と自動車用薄鋼板の開発」
- ・丹羽 直毅 東京大学「材料の延性と破壊挙動に関する研究」
- ・原 茂太 大阪大学「鉄鋼製錬スラグの物性および界面性質に関する研究」
- ・福澤 章 金属材料技術研究所「鉄鋼製錬プロセスの連続化に関する基礎的開発研究」
- ・富士川尚男 住友金属工業(株)「各種環境における耐食材料の開発に関する研究」
- ・牧野 武久 (株)神戸製鋼所「インジェクションメタラジーならびに高合金鋼の溶解精錬に関する研究開発」
- ・丸山 公一 東北大学「高温材料の変形挙動解析と合金設計」
- ・宮原 一哉 名古屋大学「高融点金属およびステンレス鋼の強度特性および微細組織に及ぼす照射効果」
- ・村山 武昭 九州大学「製鉄基礎反応の反応工学的研究」
- ・百合岡信孝 新日本製鐵(株)「低合金鋼の溶接性の研究」

1.1.2 H5.10.16第126回講演大会式典表彰式。

(1)浅田賞

- ・小島 久義 日産自動車(株)「高強度高靱性非調質鋼の開発ならびに実用化」
- ・阪野 喬 中外工業(株)「雰囲気および真空熱処理炉の開発と実用化」

(2)依論文賞

- ・「準安定オーステナイト系ステンレス鋼における加工誘起マルテンサイトの拡散型逆変態に及ぼす前加工の影響」
富村 宏紀・上田 精心・高木 節雄・徳永 洋一(九大)
- ・「シンクロトロン放射光を用いたX線CTによる金属基複合材料の内部繊維観察」
田中 義久・増田 千利(金材研)、宇佐美勝久・平野 辰巳(株)日立製作所)、今井 義雄・塩田 一路・古林 英一(金材研)、岩崎 博(高エネ研)
- ・「シッターケーキの気孔構造定量化の開発と通気性解析への応用」笠間 俊次・稲角 忠弘・中安 勤(新日鉄)
- ・「ステンレス冷延鋼板の表面光沢におよぼす微小表面欠陥の影響」
剣持 一仁・鎌田 征雄・阿部 英夫・福原 明彦・小松 富夫・垣内 博之・岸田 朗(川鉄)
- ・「低硫鋼でのMnS析出に及ぼす鋼中酸化物の影響」
若生 昌光・澤井 隆・溝口 庄三(新日鉄)

(2)澤村論文賞

- ・「Plastic behaviour of TiAl crystals containing a single set of lamellae at high temperatures」
馬越 佑吉・中野 貴由(阪大)
- ・「Mechanism of iron oxide reduction and heat transfer in the smelting reduction process with a thick layer of slag」
片山 裕之・大野 剛正・山内 雅夫・松尾 充高・河村 隆文・茨城 哲治(新日鉄)
- ・「Process characteristics of a commercial-scale oxygen blast furnace process with shaft gas injection」
大野陽太郎・松浦 正博・光藤 浩之・古川 武(NKK)

(3)三島賞

- ・太田 定雄 (株)神戸製鋼所 「遠心铸造耐熱鋼管の基礎的研究と新材料開発」
- ・新山 英輔 東北大学「铸造凝固現象の基礎研究と応用」
- ・古林 英一 金属材料技術研究所「鋼の変態バリエーションの選択に関する研究」

(4)林賞

塚田 尚史 (株)日本製鋼所「スーパークリーン鋼の溶製技術の確立」

(5)山岡賞

日本鉄鋼協会 特定基礎研究会「充填層中の気・固・液移動現象部会」

「高炉下部における気・液・固・粉体の移動現象」

日本鉄鋼連盟 鉄鋼原料品位調査委員会

「鉄鋼原料の品位評価方法の確立」

(6)里見賞

大西 正己 九州工業大学「拡散現象の関連した鉄鋼の表面処理に関する研究」

(7)日本鉄鋼協会・日本金属学会奨学賞

第1回として32大学41学科より推薦のあった下記41名を表彰。

中原 敬之(北大)、伴野 真理(室工大)、長谷 崇(岩手大)、島山 一樹・永原 敏行(秋田大)、相澤 幸宏・三上 充・織田 和宏(東北大)、御手洗泰宏(茨城大)、湯蓋 邦夫(筑波大)、石脇 智広・山本 淳(東大)、稲垣 浩貴(東工大)、青木 肇(横国大)、神浦 剛・若林 哲雄(長岡技大)、水野 義則(富山大)、野々垣陽一・田中 佳子(名大)、伊藤 清人(名工大)、福森 淳三(豊橋技大)、窪田 修・宇野 泰忠(京大)、山田 浩司・田中 秀和・足立 雅和(阪大)、小野 敏昭(愛媛大)、日比野光明(九大)、清水健一郎(九工大)、下園 和樹(熊大)、足立 振一郎(阪府工大)、山下 竜一(姫工大)、鈴木 猛(石巻専修大)、高橋 治(千葉工大)、中村 規子(東京理科大)、田中 康介(芝浦工大)、斉藤 博文(早大)、福島 桂(東海大)、仲井 宏和(関西大)、寺元 恵吾(近畿大)、原野 俊彦(長崎大)。

1.2 湯川メモリアルレクチャー

IV2. 2(1)参照

1.3 石原・浅田研究助成

次の研究に対し助成金50万円の交付を決定。交付は平成6年度。1件。

「充填層中の粉体流動特性および蓄積挙動に関する研究」
埜上 洋(東北大学素材工学研究所 助手)

1.4 日向方齊学術振興交付金

第20回・第21回分として受給者を下記のとおり決定。(第20回)

①田川 哲哉 名古屋大学工学部 材料機能工学科助手
「90年代における低炭素鋼に関する国際シンポジウム」
1993年10月17日～21日 ピッツバーグ(アメリカ)

②廣瀬 明夫 大阪大学工学部 生産加工工学科助手
「第2回 カナダ複合材料国際会議」
1993年9月27日～29日 オタワ(カナダ)

③井上 博史 大阪府立大学工学部 金属工学科助手
「第10回 材料集組国際会議」
1993年9月20日～24日 クラウスタール(ドイツ)

(第21回)

①近藤 和夫 北海道大学工学部 合成化学工学科助手
「第186回電気化学協会大会」
1994年10月2日～7日 マイアミ(アメリカ)

②月橋 文孝 東京大学工学部 金属工学科助教授
「ロシアおよびCISの21世紀の金属学に関する国際会議」
1994年6月6日～10日 モスクワ(ロシア)

③佐藤 英一 宇宙科学研究所助手
「先端材料における超塑性国際会議」
1994年5月24日～26日 モスクワ(ロシア)

④古原 忠 京都大学工学部 金属加工学教室助手
「94年無機材料の固相変態に関する国際会議」
1994年7月17日～22日 ピッツバーグ(アメリカ)

⑤孟 繁巨 室蘭工業大学大学院 博士後期課程2年
「2000年における減摩耗に関する国際会議」
1994年7月22日～23日 ストラットフォードアポンエイボン(イギリス)

リス)

1.5 浅田記念文庫の寄贈

29大学に対し以下の記念文庫を寄贈した。

- 浅田文庫 第248号「材料とプロセス」Vol.6-Nos.1~3
第249号「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展資料編」
第250号「最近の実用燃焼技術」
第251号「TECHNOLOGICAL DEVELOPMENT IN THE JAPANESE STEEL INDUSTRY DURING ITS POSTWAR RECONSTRUCTION」
第252号「第146・147回西山記念技術講座テキスト」
第253号「第148・149回西山記念技術講座テキスト」
第254号「第24回白石記念技術講座テキスト」
第255号「材料とプロセス」Vol.6-Nos.4~6
第256号「第150回西山記念技術講座テキスト」
第257号「第25回白石記念技術講座テキスト」
第258号「第151・152回西山記念技術講座テキスト」

1.6 戦後技術史調査事業

「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展」英文版を5月に発行し、当事業を終了。

1.7 鉄鋼研究振興助成金

次の20件の研究に対し助成金を交付。

- ①揮発精製法によるプレススクラップ・亜鉛メッキ鋼板の高品位・高効率材料リサイクル・システムの開発
早乙女 康典(群馬大学工学部)
- ②鋼の連続鑄造用モールドパウダーのガラス結晶転移に関する基礎研究
長坂 徹也(東北大学工学部)
- ③CaO-Fe₂O₃-Al₂O₃系高温状態での作製
前田 敬之(九州大学工学部)
- ④固/液拡散対を用いた鉄鋼の包晶反応の研究
松浦 清隆(北海道大学工学部)
- ⑤溶鋼へのスクラップ溶解速度におよぼすガス攪拌の効果
川上 正博(豊橋技術科学大学工学部)
- ⑥スピネル(MgO・Al₂O₃)系鋼中非金属介在物の生成に関する平衡論的研究
日野 光元(東北大学工学部)
- ⑦評価領域シフト法による局所光強度分布および表面形状異質部の高感度検出技術
柳 和久(長岡技術科学大学工学部)
- ⑧遊星鑄込み成形法による金属セラミックス系傾斜機能材料の作製
小林 弘旺(産業技術短期大学)
- ⑨合金めっき皮膜の晶癖・微細構造の制御と高機能化
近藤 和夫(北海道大学工学部)
- ⑩鉄鋼材料およびその溶接・接合部における微生物誘起腐食(MIC)について
菊地 靖志(大阪大学溶接工学研究所)
- ⑪β型チタン合金における侵入型不純物元素の影響
丹羽 直毅(工学院大学工学部)
- ⑫固相および液相拡散接合を利用した鉄/チタン複合材料の製造
桃野 正(室蘭工業大学工学部)
- ⑬Ni基およびFe-Ni基超合金に析出するγ'相の形態とγ/γ'格子ミスマッチの相関に関する研究
草開 清志(富山大学工学部)
- ⑭Fe-Si系合金の粒界移動とその支配因子
馬越 佑吉(大阪大学工学部)
- ⑮Fe-Si-B系アモルファス合金の結晶化組織と軟磁気特性に及ぼすM(=Nb,Zr,V,Cu)元素の効果
猶原 隆(愛媛大学工学部)

- ⑯トリチウム電顕オートラジオグラフィ法の活用による高強度鋼中の水素分布の可視化と耐遅れ破壊組織制御
齊藤 英之(室蘭工業大学工学部)
- ⑰疲労強度向上のための変態組織制御
友田 陽(茨城大学工学部)
- ⑱粒界における変態・析出の結晶学とその組織微細化に関する研究
古原 忠(京都大学工学部)
- ⑲エビ異相界面を用いた鉄鋼材料の再結晶組織の制御
梶原 正憲(東京工業大学大学院総合理工学研究科)
- ⑳Laves相によるフェライト系耐熱鋼の高強度化
松尾 孝(東京工業大学工学部)

2. 補助金等事業会計による事業

2.1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査

通産省の委託を受け、4年毎に行う製品および設備の実態調査。調査委員会(委員長:島田 仁)と幹事会および20部会を設け、28品種についてH4.9月末日における実態調査を行い、報告書として「鉄鋼二次製品生産設備の現況」をH5.6.18に刊行。日本小型自動車振興会からの補助金、本会並びに鉄鋼二次製品団体が経費を分担。

2.2 日本圧力容器研究会議

材料部会、施工部会、設計部会の3部会および部会直属のWGとして、JPVRC活動活性化WGが活動。当協会は材料部会(部会長:荒木透)、JPVRC活動活性化WGを担当。材料部会は次の4専門委員会と1連絡会が活動。

- 1)非破壊試験専門委員会
4回開催。大形試験体の集束探触子を用いた超音波探傷試験と、実欠陥寸法との比較を研究し、報告書を作成。
- 2)圧力容器用鋼材専門委員会
3回開催。新規共同研究テーマ「構造用鋼の冷間加工性」について、500,600,800N/m²級のそれぞれの鋼種についてSS曲線を調査。第1回試験完了。
- 3)水素脆化専門委員会
TG6は4回開催。共同研究テーマ「C-1/2Mo鋼水素侵食材の材料評価」試験を追加試験も含めて完了。TG7は5回開催。共同研究テーマ「長期使用した圧力容器用2.1/4Cr-1Mo鋼の水素脆化感受性評価」に関して、試験片採取位置、水素チャージ等の条件を決定。
- 4)データ収集委員会
5回開催。「Cr-Mo鋼の経年劣化材料データベースの構築」を行うべくデータシートフォーマットの検討と修正を行い、一部データ入力中。
- 5)MPC委員連絡会
平成5年度は活動なし。
- 6)JPVRC活動活性化WG
5回開催。活性化のための方策(JPVRC理念、今後の方向付等)をまとめ運営委員会に提案。

2.3 ネットネストシティー研究

(財)機械システム振興協会からの委託を受け、自立的なエネルギー、廃棄物リサイクル等の機能を備えた環境にやさしい都市空間を研究。

VI. 支部

1. 事業

1.1 北海道支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.1.26 (2)評議員会 2回開催。 H5.6.17、H6.1.26 (3)理事会 2回開催。 H5.6.17、H6.1.14

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
素材製造技術研究会第1回	日本金属学会北海道支部	H5.7.14	北海道大	特別講演1件、一般講演4件
” 第2回	”	H5.12.2	室蘭工大	特別講演4件、一般講演なし
鋼材・新素材研究会第1回	”	H5.9.13	室蘭工大	特別講演1件、一般講演3件
” 第2回	”	H6.2.28	北海道大	特別講演1件、一般講演3件

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演第1回	日本金属学会北海道支部	H5.6.17	室蘭工大	山本 全作	
” 第2回	”	H6.1.26	北海道大	多田 和夫	
春季講演大会	”	H5.6.17~18	室蘭工大	特別講演1件、一般講演63件	
冬季講演大会	”	H6.1.26~27	北海道大	特別講演5件、一般講演62件	

(3) その他

支部創立50周年記念行事 ①記念講演会(室蘭工大)、祝賀会(室蘭)H5.6.17 ②記念誌の発行H5.6.

1.2 東北支部

1) 運営関係

(1)理事会 2回開催。 H6.2.28午前、H6.2.28午後 (2)支部評議員・監事改選 H5.12.22 (3)支部理事改選 H6.1.25 (4)新支部長選出 H6.2.28

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
第4回難処理希少資源研究センター研究懇談会	日本金属学会東北支部 資源・素材学会東北支部 (財)素材工学研究会	H5.3.19	東北大学素材研	持続的発展のための資源利用学の課題
還元研究会講演会		H5.5.14	東北大学素材研	各種炭素材、焼結層、高炉内反応、還元
東北大学素材工学研究所第2回研究懇談会	東北大学素材研、素材工学研究会、資源・素材学会東北支部、紛体工学会東北支部、東北地区化学工学懇話会	H5.11.25~26	東北大学素材研	新しい素材・材料の開発と周辺技術
第7回プロセス工学研究会		H5.12.7	東北大学素材研	充填層反応プロセスの現象とシミュレーション

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演会		H5.12.9	秋田大学工学部	梶岡 博幸 早稲田嘉夫	約60名
第1回地区講演会	日本金属学会東北支部	H5.12.2	岩手大学工学部	井川 克也 徳田 昌則	
第2回地区講演会	”	H6.1.26	東北大学金研	石田 洋一 杉本 克久	約80名
特別講演会	”	H5.3.24	仙台博物館	呉 伸儀	
特別講演会	”	H5.6.16	岩手大学工学部	小岩 昌宏	
特別講演会	東北大金属材料研究部	H5.9.6	東北大学金研	H.Kronmuller	
特別講演会		H5.9.6	東北大学素材研	C.M.Wayman	
特別講演会	日本金属学会東北支部	H5.9.10	東北大学工学部	K.J.Brimacombe	
特別講演会	”	H5.9.17	東北大学工学部	小池 淳一 榎 学	
特別講演会		H5.10.7	東北大学素材研	Z.Kolemda	

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
冬季セミナー	東北大学素材研、触媒学会、 日本化学会、日本金属学会化学工 学会、日本セラミックス協会	H6.1.21	東北大学素材研	島田 昌彦 鳥居 一雄 柳田 博明	

1.3 北陸支部

1) 運営関係

(1)総会 H5.12.11 (2)評議員会 2回開催。H5.6.19、12.11 (3)理事会 2回開催。H5.6.18、12.11

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 要 内 容
富山地区材料部会	日本金属学会北陸信越支部	H5.6.3	富山大学	課題テーマ討論会
富山地区材料部会	〃	H5.9.9	富山大学	講演会(発表件数7件)
富山地区材料部会	〃	H5.12.15	富山大学	課題テーマ討論会
富山地区材料部会	〃	H6.2.15	富山大学	講演会(発表件数7件)
福井地区研究会材料フォーラム	〃	H5.6.26	福井工業大学	鋼の環境脆化、産官学の材料研究
福井地区研究会材料フォーラム	〃	H5.9.24	福井工業技術センター	
福井地区研究会材料フォーラム	〃	H5.11.26	福井大学	特別講演会
福井地区研究会材料フォーラム	〃	H6.2.12	福井工業大学	特殊材料

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会北陸信越支部	H5.6.18	ボルファート富山	森田 幹郎 松木 賢司 小島 陽	約30名
支部連合講演会	日本金属学会北陸信越支部	H5.12.11	信州大学		講演件数86件
特別講演会	日本材料学会北陸信越支部	H5.7.29	富山大学	陳 南平	約30名
講演及び講演会(実習つき)	日本機械学会北陸支部	H5.9.17~18	富山大学	五嶋 孝仁	約37名
特別講演会	日本分析化学会中部支部	H5.10.28~29	富山大学	野村 昇(他8名)	約50名
特別講演会	日本金属学会北陸信越支部	H5.12.22	金沢大学	堀川 武	約50名

1.4 東海支部

1) 運営関係

(1)総会 H5.3.11 (2)評議員会 なし (3)理事会 6回開催 H5.3.11、5.25、6.21~28、8.30、11.14、H6.2.

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 要 内 容
若手冶金エンジニア研究会①		H5.8.24~25	トピー工業社員クラブ	各種製鋼プロセスにおけるスクラップ利用技術の現状
若手冶金エンジニア研究会②		H5.11.29	名古屋大学工学部	溶鋼二次精錬用スラグの熱力学
第10回若手材料研究会		H5.5.20	新日本製鐵名古屋支店	水素エネルギー、太陽電池関連材料
第11回若手材料研究会		H5.9.2	大同特殊鋼健保会館	燃料電池開発の現状と将来への展望
第12回若手材料研究会		H5.11.25~26	住友金属工業稲永 研修センター	エネルギー関連材料

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
学術討論会		H5.6.4	名古屋シンポジオン	金属間化合物とその応用(7件)	61名
特別講演会①		H5.8.25	名古屋大学工学部	武智 弘	61名
特別講演会②		H6.2.10	名古屋大学工学部	新宮 秀夫	
湯川記念講演会①		H5.3.11	名古屋大学シンポジオン	劉 業翔	60名
湯川記念講演会②		H5.9.13	愛知県中小企業センター	村上 正紀	29名
金属材料 談話会①		H5.7.27	名古屋大学工学部	Dr.F.Appel	21名
金属材料 談話会②		H5.9.17	名古屋工業大学	Prof.T.Chart	26名
金属材料 談話会③		H5.11.18	名古屋工業大学	車田 克彦	24名
材料プロセッシング 談話会①		H5.3.16	名古屋大学工学部	劉 業翔	24名
材料プロセッシング 談話会②		H5.7.2	〃	Dr.L.D.Dascalescu	28名
材料プロセッシング 談話会③		H5.9.24	〃	随 智通	23名
材料プロセッシング 談話会④		H5.10.29	〃	Dr.M.Garnier,	42名
材料プロセッシング 談話会⑤		H5.12.27	〃	武田 紘一 丸川 雄浄	44名

(3)育成事業

学生による材料フォーラム H5.12.6 豊橋サイエンスコア

(4)その他の事業

①秋李講演大会実行委員会 H5.3.22、6.21、10.8、12.9 ②東海支部創立50周年記念講演会及び祝賀パーティー ③ものづくり教育を考える H5.8.23～24 新日鐵(株)名古屋製鉄所

1.5 関西支部

1)運営関係

(1)総会 1回開催。H5.3.29 (2)評議員会 2回開催。H5.3.29、9.10 (3)理事会 5回開催。H5.3.8、3.29、7.2、9.10、11.12

(4)各種委員会

①企画小委員会 4回開催。H5.6.2、8.24、12.20、H6.2.9 ②学術運営小委員会 1回開催。H5.5.14 ③財務広報小委員会 4回開催。H5.6.17、8.5、8.19、H6.1.7 ④「鉄と鋼」ISIJ情報ネットワーク編集委員会 1回開催。H5.5.14 ⑤「ものづくり教育を考える会」実行委員会 1回開催。H5.8.5 ⑥材料評論セミナー運営委員会 2回開催。H5.6.15、H6.1.21 ⑦支部小史編集委員会 2回開催。H4.8.11、11.13 ⑧事業資金検討委員会 1回開催。H5.9.17

2)事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
材料物性工学談話会	日本金属学会関西支部	3回	関西大学、他	
鉄鋼プロセス研究会	〃	5回	島津製作所、他	
材料開発研究会	〃	8回	関西大学、他	
関西分析研究会	〃	4回	大阪工業技術研究所、他	
材料化学研究会	〃	3回	日本ペイント、他	

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
支部講演会	日本金属学会関西支部	H5.3.8	昭和アルミニウム	松崎 洋祐	53名
湯川記念講演会(第1回)	〃	H5.3.29	神戸製鋼所	竹澤 節雄 鈴木 朝夫	102名
湯川記念講演会(第2回)	〃	H5.9.10	住友ビル	吉永日出男 林 豊	107名
支部講演会	〃	H5.11.12	関西電力	篠原美知夫	66名
材料評価セミナー(実習つき講習会)					
①化学的評価	〃	H5.10.5	大阪府立大学	山川 宏二 工藤 昶夫	16名
②表面分析	〃	H5.10.29	島津製作所	深町 正利 篠山 哲明	22名
③組織観察	〃	H5.11.5	兵庫県立工業技術センター	城野 政弘 駒井謙次郎	30名
④X線回折	〃	H5.11.30	リガク	長村 光造 藤縄 剛	13名
⑤理論解析(DV-X α 法)	〃	H5.12.7~8	日本電子計算	足立 祐彦 那須 三郎	31名

(3)見学会 H5. 3. 8 昭和アルミニウム(株)彦根製作所 参加者53名、H5.11.12 関西電力(株)六甲新エネルギー実験センター 参加者66名

(4)その他の事業 懇親会 H5.3.29 参加者31名

1.6 中国四国支部

1)運営関係

(1)総会 H5.3.17 (2)評議員会 H5.11.16 (3)理事会 2回開催。H5.8.5、H6.3.14 (4)幹事会 5回開催。H5.3.17、6.24、8.26、10.26、H6.2.10

2)事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
金属物性研究会	日本金属学会中国四国支部	H5.6.25	広島大学	ポスターセッションによる質疑応答(講演題目11件)
	〃	H5.11.16	広島大学	ポスターセッションによる質疑応答(講演題目11件)
材料制御技術研究会	〃	H5.6.25	広島大学	講演題目3件
	〃	H5.11.16	広島大学	講演題目4件

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
学術講演会(湯川記念講演会)	日本金属学会中国四国支部	H5.3.17	東方2001	宮田 順 中谷 功	100名
学術講演会(湯川記念講演会)	"	H5.8.6	岡山大学	竹内 英麿	85名
講演大会	"	H5.8.5	岡山大学		150名

(3)見学会 H5.8.5 川崎製鉄(株)水島製鉄所 参加者45名(共催・後援:日本金属学会中国支部)

(4)その他の事業

①ものづくり教育を考える会「高校理科系教諭の製鉄所・研究所見学と鉄鋼技術者・研究者との懇談会」 H5.8.10~11 川崎製鉄(株)水島製鉄所

②「鉄と鋼」ISIJ情報ネットワークの編集 H5.6.24、8.26 中国鉄鋼業協会

1.7 九州支部

1)運営関係

(1)総会 H5.6.4 (2)評議員会 H5.6.4 (3)理事会 3回開催。 H5.6.4、8.20、12.16

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
第104回材料科学談話会		H5.3.12	九州大学工学部	加速器結合型電子顕微鏡を用いたイオン・電子同時照射効果に関する研究、他
第105回 "		H5.3.16	九州大学工学部	Strengthening by Ordered Precipitates
第106回 "		H5.5.26	九州大学工学部	Theoretical and Experimental Microscopic Investigations of Crack Tip Plasticity in Silicon
第107回 "		H5.7.23	九州大学総理工	レーザーガラスの特性と組成の関係、他
第108回 "		H5.8.23	九州大学工学部	Lattice Damage during Ion Impantation of Semiconductor
第109回 "		H5.9.14	熊本大学	Corrosion Fatigue and Static Mode Crack Growth
第110回 "		H5.10.22	九州大学工学部	弾性拘束下での相分解シミュレーション
第111回 "		H5.11.5	九州大学工学部	「Fundamental a Research in Cze-ch Republic」 and 「High-Temperature Creep Behaviour of M2B-Fe-18 Cr-12Ni in situ Composite」
第112回材料科学談話会		H5.12.3	九州大学工学部	Microstructural Evolution in Two-phase Field of Ordered Phase
第113回 "		H5.12.15	九州大学工学部	
第65回材料工学談話会		H5.5.18	九州大学工学部	風力発電用FRP翼材の開発、他
第66回 "		H5.6.16	九州大学工学部	生医学材料の現状
第67回 "		H5.7.13	九州大学工学部	高分子材料の塑性
第68回 "		H5.7.19	九州大学工学部	Power Metallurgy Processing of Intermetallic and Intermellic Matrix Composites
第69回 "		H5.8.18	九州大学工学部	Peal-Time Observation of the Movements of Single Absorbed Atoms and Molecules
第70回 "		H5.8.27	九州大学工学部	Study on Submicrometer-Grained Metallic Materials
第71回 "		H5.9.10	九州大学工学部	Development of Liquid Metallurgy Processed Aluminum Matrix Composite Reinforcement with Ceramic Microspheres
第72回 "		H5.9.16	九州大学工学部	材料工学と時代のニーズ
第73回 "		H5.11.17	九州大学工学部	Hydrogen phase "naklep"
第74回 "		H.5.12.20	熊本大学	Can Chemical Reactions Occur in the Shock Front in Powder Mixture?

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
第81回材料プロセス談話会		H5.6.23	住友金属工業小倉	小倉製鉄所の都市型製鉄所作りと環境保全について、他
第82回	〃	H5.9.16	九州大学工学部	21世紀の製鋼プロセス
第83回	〃	H5.1.21	熊本大学工学部	(一般講演会開催)

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者
第80回学術講演会	日本金属学会	H5.6.4	九州大学	(講演件数75件)	241名
第81回講演討論会	〃	H5.9.17	九州大学工学部	沖 憲典、他	70名
第82回講演討論会	〃	H5.12.13	新日鉄大分	小田泰雄、他	65名
第46回湯川記念講演会	〃	H5.9.17	九州工業大学	新宮 秀夫	70名
第47回湯川記念講演会	〃	H5.12.13	新日鉄大分	井内 徹	65名

2. 収支決算

収入の部

(単位：円)

科 目	合 計	北海道	東 北	北 陸	東 海	関 西	中国四国	九 州
本 部 補 助 金	6,343,000	453,000	467,000	344,000	861,000	2,081,000	1,233,000	904,000
（基本補助金）	1,780,000	200,000	200,000	200,000	240,000	400,000	300,000	240,000
（会費補助金）	3,713,000	153,000	167,000	94,000	521,000	1,431,000	883,000	464,000
（事業補助金）	850,000	100,000	100,000	50,000	100,000	250,000	50,000	200,000
会 費	1,090,760	0	0	0	545,760	0	545,000	0
参 加 費	1,104,200	63,000	0	760,000	166,200	115,000	0	0
他 団 体 分 担 金	975,950	15,000	60,000	400,950	0	0	0	500,000
利 子 収 入	741,168	39,016	1,417	589	313,654	156,455	170,880	59,157
支 部 繰 入 金 収 入	1,500,000	0	0	0	1,500,000	0	0	0
当 期 収 入 合 計 (A)	12,325,278	570,016	533,417	1,505,539	3,441,814	2,352,455	1,948,880	1,973,157
前 期 繰 越 収 支 差 額 (B)	13,242,059	1,052,548	491,011	306,210	3,022	4,109,417	5,378,235	1,901,616
収 入 合 計 (A + B)	25,567,337	1,622,564	1,024,428	1,811,749	3,444,836	6,461,872	7,327,115	3,874,773
(参考) 湯川記念講演会委託費	1,804,050	187,126	189,900	300,000	235,484	300,000	300,000	291,540

支出の部

研 究 会 費	1,864,866	267,246	90,000	374,000	120,000	630,000	83,620	300,000
講 演 会 ・ 講 習 会 費 等	3,676,602	206,655	262,499	1,187,500	911,588	0	179,777	928,583
見 学 費	116,947	0	0	0	0	0	116,947	0
湯川記念講演会支出超過額	9,211	0	0	0	0	8,621	590	0
支 部 創 立 記 念 事 業 費	1,005,347	0	0	0	1,005,347	0	0	0
そ の 他 事 業 費	204,821	0	0	0	0	115,000	0	89,821
事 業 費 合 計 (C)	6,877,794	473,901	352,499	1,561,500	2,036,835	753,621	380,934	1,318,404
管 理 費	936,678	94,764	44,496	4,780	107,045	334,231	181,732	169,630
会 議 費	656,972	6,500	0	129,460	25,800	240,800	254,412	0
旅 費	1,551,188	0	2,533	0	72,000	700,000	692,900	83,755
通 信 費	472,901	14,574	23,681	13,120	124,019	162,817	72,066	62,624
印 刷 費	443,853	6,138	9,270	20,000	20,357	171,907	216,181	0
雑 費	251,442	1,030	18,940	8,892	58,988	70,497	93,095	0
管 理 費 合 計 (D)	4,313,034	123,006	98,920	176,252	408,209	1,680,252	1,510,386	316,009
支 出 の 部 合 計 (C + D)	11,190,828	596,907	451,419	1,737,752	2,445,144	2,433,873	1,891,320	1,634,413
次 期 繰 越 収 支 差 額 (A + B) - (C + D)	14,376,509	1,025,657	573,009	73,997	999,692	4,027,999	5,435,795	2,240,360

Ⅶ. 平成5年度(自 平成5年3月1日 至 平成6年2月28日)収支決算

平成5年度収支計算書総括表

費 目	一般会計Ⅰ	別途資金会計Ⅱ			補助金等事業 会計Ⅲ	合 計 Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ
		特別資金(7)	積立金等(イ)	小計(7)+(イ)		
収入の部						
会費収入	670,367,745			0		670,367,745
事業収入	391,642,817			0		391,642,817
補助金・受託金収入		0	0	0	4,200,000	4,200,000
寄付金・負担金・分担金収入		0	2,385,644	2,385,644	6,597,212	8,982,856
利子・雑収入	9,070,983	61,611,900	16,235,899	77,847,799	472,340	87,391,122
繰入金収入	0	5,000,000	41,314,940	46,314,940	0	46,314,940
当期収入合計(A)	1,071,081,545	66,611,900	59,936,483	126,548,383	11,269,552	1,208,899,480
前期繰越収支差額	49,995,483	1,054,373,487	358,194,734	1,412,568,221	19,781,990	1,482,345,694
収入合計(B)	1,121,077,028	1,120,985,387	418,131,217	1,539,116,604	31,051,542	2,691,245,174
支出の部						
事業費	853,418,451	91,681,515	0	91,681,515	11,874,763	956,974,729
管理費	170,316,687	0	3,478,500	3,478,500	0	173,795,187
繰出金支出	46,314,940	0	0	0	0	46,314,940
当期支出合計(C)	1,070,050,078	91,681,515	3,478,500	95,160,015	11,874,763	1,177,084,856
当期収支差額(A-C)	1,031,467	-25,069,615	56,457,983	31,388,368	-605,211	31,814,624
次期繰越収支差額(B-C)	51,026,950	1,029,303,872	414,652,717	1,443,956,589	19,176,779	1,514,160,318

平成5年度貸借対照表総括表

科 目	一般会計Ⅰ	別途資金会計Ⅱ			補助金等事業 会計Ⅲ	合 計 Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ
		特別資金(7)	積立金等(イ)	小計(7)+(イ)		
資産の部						
流動資産	441,533,472	1,029,305,911	414,652,717	1,443,958,628	20,206,779	1,905,698,879
固定資産	172,555,640			0		172,555,640
資産合計	614,089,112	1,029,305,911	414,652,717	1,443,958,628	20,206,779	2,078,254,519
負債の部						
流動負債	178,543,935	2,039	0	2,039	1,030,000	179,575,974
負債合計	178,543,935	2,039	0	2,039	1,030,000	179,575,974
正味の部						
前期繰越正味財産	410,622,522	1,054,373,487	358,194,734	1,412,568,221	18,576,663	1,841,767,406
当期正味財産増加	24,922,655	-25,069,615	56,457,983	31,388,368	600,116	56,911,139
正味財産合計	435,545,177	1,029,303,872	414,652,717	1,443,956,589	19,176,779	1,898,678,545
負債及び正味財産合計	614,089,112	1,029,305,911	414,652,717	1,443,958,628	20,206,779	2,078,254,519

平成5年度一般会計貸借対照表内訳表

科 目		金 額
資 産 の 部	現金預金	189,735,132
	流動資産	
	未収入金	5,265,225
	仮払金	14,080,813
	仮払消費税	20,102,751
	棚卸資産	211,962,587
	立替金	341,964
	委託未収金	45,000
	流動資産合計	441,533,472
	固定資産	
什器備品	34,936,692	
図書資料	946,548	
敷金	66,172,400	
用紙等積立金	40,500,000	
修繕積立金	30,000,000	
固定資産合計	172,555,640	
資産合計	614,089,112	
負 債 の 部	流動負債	
	仮受消費税	18,844,447
	前受金	28,025,642
	預り金	124,833,082
	未払費用引当金	2,885,768
負債合計	3,954,996	
負債合計	178,543,935	
正 味 の 財 産 部	前期繰越正味財産	410,622,522
	当期正味財産増加額	24,922,655
	期末正味財産	435,545,177
負債及び正味財産合計	614,089,112	

平成5年度一般会計収支計算書内訳表

支出の部

収入の部

(単位:円)

事業別	費目	5年度予算金額(A)	5年度実績金額(B)	増減(A)-(B)	事業別	費目	5年度予算金額(A)	5年度実績金額(B)	増減(A)-(B)
編集・業務事業費	境界領域委員会費	5,987,000	4,764,872	1,222,128	編集・業務事業収入	境界領域委員会分譲収入	0	926,335	-926,335
	編集委員会費	2,286,000	2,196,947	89,053		和文誌分譲収入	22,000,000	24,475,571	-2,475,571
	和文会誌費	103,590,000	109,197,862	-5,607,862		広告収入	19,000,000	19,298,400	-298,400
	欧文会誌費	43,890,000	39,392,732	4,497,268		その他事業収入	300,000	472,672	-172,672
	材料とプロセス費	21,293,000	20,531,992	761,008		小計	41,300,000	44,246,643	-2,946,643
	その他刊行費	8,220,000	9,378,704	-1,158,704		欧文誌分譲収入	14,000,000	17,768,220	-3,768,220
	講演大会費	19,855,000	17,504,348	2,350,652		広告収入	500,000	468,000	32,000
	小計	199,134,000	198,202,585	931,415		補助金収入	9,100,000	10,010,000	-910,000
	育成委員会費	1,162,280	1,439,143	-276,863		その他事業収入	100,000	344,665	-244,665
	西山技術講座費	12,264,100	14,486,126	-2,222,026		小計	23,700,000	28,590,885	-4,890,885
	白石記念講座費	3,885,900	3,353,102	532,798		材料とプロセス分譲収入	33,000,000	30,839,407	2,160,593
	鉄鋼工学セミナー費	21,624,800	20,977,640	647,160		広告収入	3,200,000	3,312,000	-112,000
	(内 アドバンストセミナー費)		(1,730,488)	(-1,730,488)		小計	36,200,000	34,151,407	2,048,593
	学生見学会費	20,182,990	16,141,104	4,041,886		その他刊行物分譲収入	3,200,000	8,059,009	-4,859,009
	ものづくり教育費	4,058,350	1,901,139	2,157,211		小計	3,200,000	8,059,009	-4,859,009
	知的財活用費	1,468,560	1,388,298	80,262		講演大会参加費収入	4,790,000	2,923,134	1,866,866
	小計	64,646,980	59,686,552	4,960,428		広告収入	250,000	260,000	-10,000
会員事務管理費	3,995,700	3,330,936	664,764	小計	5,040,000	3,183,134	1,856,866		
支部関係費	6,608,000	6,343,000	265,000	西山テキスト分譲収入	6,168,400	7,614,596	-1,446,196		
以上計	280,371,680	272,327,945	8,043,735	広告収入	300,000	471,000	-171,000		
人件費	68,560,000	64,778,938	3,781,062	西山誌記念資金繰入	5,795,700	6,400,530	-604,830		
管理費	15,993,000	17,664,787	-1,671,787	小計	12,264,100	14,486,126	-2,222,026		
計	364,924,680	354,771,670	10,153,010	白石テキスト分譲収入	786,500	1,304,995	-518,495		
				広告収入	200,000	0	200,000		
				白石記念資金繰入	2,899,400	2,048,107	851,293		
				小計	3,885,900	3,353,102	532,798		
				鉄鋼工学セミナー参加費収入	21,758,100	23,348,773	-1,590,673		
				(内アドバンスト参加費収入)	小計	21,758,100	23,348,773	-1,590,673	
				学生見学会分担保金	15,674,300	15,670,000	4,300		
				計	163,022,400	176,015,414	-12,993,014		
国際事業費	国際交流委員会費	358,800	117,294	241,506	国際事業収入	コンピュータテキスト分譲収入	900,000	537,930	362,070
	コンピュータ国際会議費(93)	17,659,800	11,190,003	6,469,797		コンピュータ参加費収入	15,000,000	6,218,023	8,781,977
	世界製鉄会議(94)	3,443,200	3,284,779	158,421		補助金収入	0	1,700,000	-1,700,000
	材料電磁ノイズ国際会議(94)	800,400	1,051,332	-250,932		雑収入	0	451,793	-451,793
	日・独シンポジウム費(93)	5,186,700	5,892,561	-705,861	小計	15,900,000	8,907,746	6,992,254	
	国際会議準備費	5,251,900	5,222,220	29,680		日・独シンポジウム参加費収入	1,520,000	755,709	764,291
	以上計	32,700,800	26,758,229	5,942,571	小計	1,520,000	755,709	764,291	
	人件費	47,528,000	45,189,455	2,338,545					
	管理費	6,154,000	6,796,385	-642,385	計	17,420,000	9,663,455	7,756,545	
計	86,382,800	78,744,069	7,638,731						
技術研究調査事業費	研究委員会費	3,782,000	2,221,687	1,560,313	技術事業調査収入				
	共同研究会費	36,783,000	30,366,471	6,416,529					
	特基研究会費	60,150,000	51,348,915	8,801,085					
	基礎研究会費	12,283,000	9,194,304	3,088,696					
	国際鉄鋼技術委員会費	1,560,000	665,208	894,792					
	以上計	114,558,000	93,796,585	20,761,415	計	0	0	0	
	人件費	36,491,000	37,373,527	-882,527					
	管理費	13,533,000	14,947,039	-1,414,039					
計	164,582,000	146,117,151	18,464,849						
鉄鋼情報技術事業費	鉄鋼技術情報運営委員会費	1,020,800	680,520	340,280	鉄鋼情報技術事業収入	図書館サービス収入	5,774,000	5,018,851	755,149
	図書・資料業務費	15,369,000	11,903,399	3,465,601		頒布収入	6,240,000	8,145,411	-1,905,411
	情報業務費	4,830,000	3,636,282	1,193,718	小計	14,640,000	13,205,586	1,440,414	
	以上計	21,219,800	16,220,201	4,999,599	計	26,660,000	26,369,848	290,152	
	人件費	40,501,000	39,864,394	636,606					
	管理費	42,885,000	45,640,363	-2,755,363					
計	104,605,800	101,724,358	2,880,442						
鉄鋼標準化事業費	鉄鋼標準化運営委員会費	3,081,300	3,245,545	-164,245	鉄鋼標準化事業収入	鉄鋼標準化収入	60,000,000	53,288,724	6,711,276
	標準化委員会費	8,439,570	6,429,611	2,009,959		補助金収入	8,100,000	8,055,376	44,624
	鉄鋼標準試料費	49,467,000	49,750,453	-283,453		標準化事業分担保金	117,072,320	118,250,000	-1,177,680
	TC17業務費	14,267,000	13,142,035	1,124,965	計	185,172,320	179,594,100	5,578,220	
	TC17/SC1業務費	9,742,000	9,002,560	739,440					
	TC67/SC5業務費	5,945,000	3,947,601	1,997,399					
	鉄鋼JIS三者会議費	1,271,450	625,367	646,083					
	以上計	92,213,320	86,143,172	6,070,148					
	人件費	60,712,000	52,462,383	8,249,617					
	管理費	32,247,000	33,455,048	-1,208,048					
計	185,172,320	172,060,603	13,111,717						
事業費合計	905,667,600	853,418,451	52,249,149		事業収入合計	392,274,720	391,642,817	631,903	
管理費	人件費	108,003,000	105,749,912	2,253,088	入会金	0	658,898	-658,898	
	一般管理費	42,859,000	51,853,275	-8,994,275	正会員会費	89,591,000	87,314,986	2,276,014	
	名簿構築費	10,000,000	12,713,500	-2,713,500	学生会員会費	510,000	674,830	-164,830	
	管理費合計	160,862,000	170,316,687	-9,454,687	外国員会費	7,350,000	5,515,405	1,834,595	
	繰出金支出(*)	30,700,000	46,314,940	-15,614,940	維持会員会費	568,737,680	576,203,626	-7,465,946	
	予備費	21,629,283	21,629,283	0	会費収入合計	666,188,680	670,367,745	-4,179,065	
	当期収支合計	1,118,858,883	1,070,050,078	48,808,805	利子・雑収入	10,400,000	9,070,983	1,329,017	
	当期収支差額	0	1,031,467	-1,031,467	繰入金(基本金)	0	0	0	
	次期繰越収支差額	0	51,026,950	-51,026,950	当期収入合計	1,068,863,400	1,071,081,545	-2,218,145	
総計	1,118,858,883	1,121,077,028	-2,218,145	前期繰越収支差額	49,995,483	49,995,483	0		
				総計	1,118,858,883	1,121,077,028	-2,218,145		

*退職積立金 ¥35,000,000 退職年金積立金 ¥6,314,940 鉄鋼研究振興資金 ¥5,000,000

平成5年度 別途資金会計収支計算書内訳表・補助金等事業会計収支計算書内訳表

科	目	特別資金										特別資金合計	
		表彰並びに 事業資金 (5,802万円)	渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	湯川正夫 記念資金 (3,000万円)	浅田長平 記念資金 (5,000万円)	白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	日向方齊学術 振興資金 (6,000万円)	研究振興資金 (292万円)	外島健吉 記念資金 (10,000万円)	鉄鋼研究 振興資金 (54,350万円)		
収入の部	補助金・受託金収入												
	寄付金・負担金・分担金収入	3,684,197	645,912	2,672,283	2,361,333	3,407,430	2,929,754	2,864,568	189,187	5,693,981	37,163,255	61,611,900	
	当期収入合計	3,684,197	645,912	2,672,283	2,361,333	3,407,430	2,929,754	2,864,568	189,187	5,693,981	42,163,255	66,611,900	
	前期繰越収支差額	88,526,285	15,801,430	49,619,742	50,711,700	52,414,548	59,439,117	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572,375,234	1,054,373,487	
支出の部	表彰費・調査・研究会費	4,178,457	345,685	367,492		1,026,640						5,918,274	
	記念講座費・講演出版費			6,400,530	5,932,665		2,048,107					14,381,302	
	浅田記念文庫費・学術振興費	500,000				936,868				25,446,558		26,383,426	
	研究助成金	4,678,457	345,685	6,768,022	5,932,665	2,463,508	2,048,107	2,388,180	0	41,610,333		44,998,513	
管理費	退職金・退職一時金											91,681,515	
	退職金											0	
	退職金											0	
	退職金											0	
繰越収支差額	当期支出合計	4,678,457	345,685	6,768,022	5,932,665	2,463,508	2,048,107	2,388,180	0	25,446,558	41,610,333	91,681,515	
	当期収支差額	-994,260	300,227	-4,095,739	-3,571,332	943,922	881,647	476,388	189,187	-19,752,577	552,922	-25,069,615	
	前期繰越収支差額	87,532,025	16,101,657	45,524,003	47,140,368	53,358,470	60,320,764	57,121,444	4,657,361	84,619,624	572,928,156	1,029,303,872	
	次期繰越収支差額												

平成5年度 別途資金会計貸借対照表内訳表・補助金等事業会計貸借対照表内訳表

科	目	特別資金										特別資金合計
		表彰並びに 事業資金 (5,802万円)	渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	湯川正夫 記念資金 (3,000万円)	浅田長平 記念資金 (5,000万円)	白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	日向方齊学術 振興資金 (6,000万円)	研究振興資金 (292万円)	外島健吉 記念資金 (10,000万円)	鉄鋼研究 振興資金 (54,350万円)	
流動資産	現金預入金	86,807,652	16,101,657	45,526,042	47,140,368	53,358,470	60,229,131	57,121,444	4,657,361	84,619,624	572,928,156	1,028,489,905
	払戻金	724,373										815,496
	払戻金							91,123				510
	棚卸資産							510				
流動負債	未払受取金			2,039								2,039
	未払消費税											0
	未払消費税											0
	未払消費税											0
正味財産	前期繰越正味財産額	88,526,285	15,801,430	49,619,742	50,711,700	52,414,548	59,439,117	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572,375,234	1,054,373,487
	当期正味財産増加額	-994,260	300,227	-4,095,739	-3,571,332	943,922	881,647	476,388	189,187	-19,752,577	552,922	-25,069,615
	当期正味財産増加額	87,532,025	16,101,657	45,524,003	47,140,368	53,358,470	60,320,764	57,121,444	4,657,361	84,619,624	572,928,156	1,029,303,872
	負債及び正味財産合計	87,532,025	16,101,657	45,526,042	47,140,368	53,358,470	60,320,764	57,121,444	4,657,361	84,619,624	572,928,156	1,029,303,911

一般会計正味財産増減計算書

科	目	金額
1. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額		1,031,467
什器備品購入額		12,345,672
棚卸資産増加額		21,243,953
小計		34,621,092
2. 減少の部		
1. 資産減少額		
車両除却額		362,000
什器備品除却額		228,400
什器備品減価償却額		8,507,537
電信電話債券償還額		150,000
敷金等戻り額		450,500
小計		9,698,437
当期正味財産増加額		24,922,655
前期繰越正味財産額		410,622,522
期末正味財産合計額		435,545,177

基本金	積立金等						別途資金 合計	補助金等事業			
	退職金 積立金	退職年金 積立金	厚生資金 積立金	会館資金 積立金	国際会議 積立金	積立金等 合計		日本圧力 容器研究 会議会計	鉄鋼二次製品 生産設備 調査会計	ネットレスト ンティ研究 会	補助金等事業 合計
494,947	4,555,957	2,385,644	1,275,425	958,901	2,254,538	0	0	0	3,000,000	1,200,000	4,200,000
	35,000,000	6,696,131				2,385,644	2,385,644	5,079,944	1,517,268	0	6,597,212
494,947	39,555,957	15,396,715	1,275,425	958,901	2,254,538	59,936,483	126,548,383	5,549,095	4,520,363	1,200,094	11,269,552
11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	11,659,253	53,160,800	358,194,734	1,412,568,221	18,576,663	1,205,327	0	19,781,990
11,596,274	136,241,432	165,111,097	37,148,922	12,618,154	55,415,338	418,131,217	1,539,116,604	24,125,758	5,725,690	1,200,094	31,051,542
						0	5,918,274	5,033,774	5,725,690	1,115,299	11,874,763
						0	14,381,302	0	0	0	0
						0	26,383,426	0	0	0	0
						0	44,998,513	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	91,681,515	5,033,774	5,725,690	1,115,299	11,874,763
	1,705,000	385,100				2,090,100	2,090,100	0	0	0	0
		1,388,400				1,388,400	1,388,400	0	0	0	0
0	1,705,000	1,773,500	0	0	0	3,478,500	3,478,500	0	0	0	0
						0	0	0	0	0	0
0	1,705,000	1,773,500	0	0	0	3,478,500	95,160,015	5,033,774	5,725,690	1,115,299	11,874,763
494,947	37,850,957	13,623,215	1,275,425	958,901	2,254,538	56,457,983	31,388,368	515,321	-1,205,327	84,795	-605,211
11,596,274	134,536,432	163,337,597	37,148,922	12,618,154	55,415,338	414,652,717	1,443,956,589	19,091,984	0	84,795	19,176,779

基本金	積立金等						別途資金 合計	補助金等事業			
	退職金 積立金	退職年金 積立金	厚生資金 積立金	会館資金 積立金	国際会議 積立金	積立金等 合計		日本圧力 容器研究 会議会計	鉄鋼二次製品 生産設備 調査会計	ネットレスト ンティ研究 会	補助金等事業 合計
11,596,274	134,536,432	163,337,597	30,832,598	12,618,154	55,415,338	408,336,393	1,436,826,298	18,407,305	0	1,081,340	19,488,645
						0	0	322,643	0	0	322,643
						0	815,496	362,036	0	0	362,036
			6,316,324			6,316,324	6,316,324	510	0	33,455	33,455
						0	0	0	0	0	0
						0	0	0	0	0	0
11,596,274	134,536,432	163,337,597	37,148,922	12,618,154	55,415,338	414,652,717	1,443,958,628	19,091,984	0	1,114,795	20,206,779
						0	2,039	0	0	1,030,000	1,030,000
						0	0	0	0	0	0
						0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	2,039	0	0	1,030,000	1,030,000
11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	11,659,253	53,160,800	358,194,734	1,412,568,221	18,576,663	0	0	18,576,663
494,947	37,850,957	13,623,215	1,275,425	958,901	2,254,538	56,457,983	31,388,368	515,321	0	84,795	600,116
						0	0	0	0	0	0
11,596,274	134,536,432	163,337,597	37,148,922	12,618,154	55,415,338	414,652,717	1,443,956,589	19,091,984	0	84,795	19,176,779
11,596,274	134,536,432	163,337,597	37,148,922	12,618,154	55,415,338	414,652,717	1,443,958,628	19,091,984	0	1,114,795	20,206,779

VIII. 総務事項

- 1) H5.5.25、平成4年度事業報告、収支決算報告、平成5年度事業計画、収支予算書及び通常総会議事録を文部大臣に提出。
- 2) 理事の変更登記を東京法務局へ提出、5月20日登記完了。
- 3) 「事務局組織規程」「基礎研究会規程」「就業規則」「給与規程」「旅費規程」を一部改正。
- 4) 「会員団体組織規程」を「分会組織規程」に改訂。

IX. 寄付金の受け入れ

本年度はなし。

平成6年度(平成6年3月1日から平成7年2月28日まで)事業計画

特記事項

1. (新)企画委員会、および企画小委員会の発足により、リストラ80の実行計画の策定と一部具体化。
2. 境界領域委員会で他の学協会との共同活動、海外研究者との交流を活性化する他、総合的解説書の作成準備等を実施。
3. 平成6年4月より日英機械翻訳を事業として実施。
4. 外国人研究員奨学制度の初年度として1名の研究員を招聘。
5. 「第1回世界製鉄会議」「材料電磁プロセス国際会議」を開催。小規模国際会議として「IF鋼の金属学国際フォーラム」「低炭素高強度鋼の組織に関する国際シンポジウム」を開催。
6. 二国間シンポジウムとして「第2回日本・カナダシンポジウム」を開催。
7. 共同研究会
圧延理論部会が100回記念大会を、設備技術部会が50回記念大会をそれぞれ開催。
8. 特基研究会
(1)変形特性の予測と制御部会、鉄鋼の初期凝固研究部会、高純度Fe-Cr研究部会、がシンポジウムを開催し、活動を終了。
(2)循環性元素分離部会が中間報告会を開催および新製鋼フォーラムとの合同発表会を開催。ステンレス鋼の耐候性部会が中間報告会を開催。
(3)新コークス製造技術の基礎工学、耐火物の組織形態に関する評価法の研究、および金属・鉄鋼協議会推薦テーマのうちか

ら再結晶・集合組織、をテーマに3部会を発足。

9. 基礎研究部会
(1)ベイナイト調査研究部会、VAMAS材料評価部会、圧延ロール研究部会、耐火物の組織評価研究部会、マイクロ組織センサー研究部会が最終報告書を作成。
(2)ネットネストシティー研究部会がシンポジウムを開催。
(3)実用構造用鋼の基本特性、および金属・鉄鋼協議会推薦テーマのうちから材料の機能性と組織形状(へのメソスコピックアプローチ)をテーマに2研究部会を発足。
10. 平成5年度に鉄鋼技術情報センターを閉鎖したが、科学技術情報センター技術文献抄録・校閲業務は継続する。
11. 標準化業務を日本鉄鋼連盟に移管。
12. 鉄鋼JIS20規格とそれに対応するISO26規格について国際整合性の調査を工業技術院の受託調査として行い、改正、確認、廃止の要否を検討。
13. 第18回ISO/TC17(鋼)総会を11月フィラデルフィアで主催
14. 第15回ISO/TC17/SC1(鉄鋼分析)国際会議を6月7~10日、さらに前日第2回国際鉄鋼分析委員会をそれぞれ神戸で主催。
15. 第4回ISO/TC67/SC5(油井管)国際会議を9月26~28日幕張で主催。引き続き、第14回ISO/TC67総会(石油及び天然ガス工業用材料及び装置)を29~30日に開催。
16. JSS極微量炭素定量用の検量線シリーズを開発。

目次

I. 会議	N332
II. 会員	N333
III. 一般会計による事業	N333
1. 刊行事業	N333
1.1 鉄と鋼	N333
1.2 ISIJ International	N333
1.3 材料とプロセス	N333
1.4 図書の刊行	N333
1.5 名簿の刊行	N333
2. 講演大会事業	N333
2.1 第127回春季講演大会	N333
2.2 第128回秋季講演大会	N333
3. 育成事業	N333
3.1 最新鉄鋼学術書の出版	N333
3.2 西山記念技術講座	N334
3.3 白石記念講座	N334
3.4 鉄鋼工学セミナー	N334
3.5 鉄鋼工学アドバンストセミナー	N334
3.6 学生見学会	N334
3.7 ものづくり教育を考える会	N334
3.8 外国人研究員奨学制度	N334
4. 国際交流事業	N334
4.1 国際会議	N334
4.2 小規模国際会議	N334
4.3 二国間シンポジウム	N334
5. 技術調査・研究事業	N334
5.1 共同研究会	N334
5.2 特基研究会	N334
5.3 基礎研究会	N335
6. 技術情報事業	N335

6.1 資料のマイクロフィルム化等	N335
6.2 JICST(JOIS)技術文献の抄録、校閲	N335
6.2 著作物の頒布	N335
7. 標準化事業	N335
7.1 標準規格作成事業	N335
7.2 ISO幹事国事業	N335
7.3 鉄鋼標準試料事業	N336
IV. 特別会計による事業	N336
1. 特別資金会計による事業	N336
1.1 表彰	N336
1.2 湯川メモリアルレクチャー並びに湯川記念講演会の開催	N336
1.3 石原・浅田研究助成金の交付	N336
1.4 日向方齊学術振興交付金	N336
1.5 浅田記念文庫の寄贈	N336
1.6 鉄鋼研究振興助成金	N336
2. 補助金等事業会計による事業	N336
2.1 日本圧力容器研究会議	N336
2.2 ネットネストシティー研究	N336
2.3 フレームおよび外装と一体化したフレームのサイクルに関する研究	N336
V. 支部	
1. 事業	N337
1.1 北海道支部	N337
1.2 東北支部	N337
1.3 北陸支部	N338
1.4 東海支部	N338
1.5 関西支部	N338
1.6 中国四国支部	N339
1.7 九州支部	N339
2. 収支予算	N340
VI. 平成6年度収支予算	N340

平成6年度 事業計画

I. 会議

会議名	開催回数	開催月(予定)	議案
通常総会	1	3月	平成5年度事業報告、収支決算 平成6年度事業計画、収支予算、理事、監事、評議員選挙等
評議員会	2	7月、7年2月	平成5年度事業報告、収支決算 平成6年度事業計画、収支予算、次期役員候補推薦
理事会	6	3月(2回)、 7月、10月、7年1月、2月	月次事業報告、会計報告、「リストラ80」関連事項、 評議員会、総会提出議案の決定、表彰者決定等
特別資金運営委員会	1	7年1月	特別資金の決算、予算
次期役員・名誉会員候補選考委員会	3	10月、12月、7年1月	協会役員候補・名誉会員候補選定
一般表彰選考委員会	2	7月、7年1月	協会の一般表彰各賞候補選定
特別表彰選考委員会	2	10月、7年1月	協会の特別表彰各賞候補選定
委員長会議		随時	事業運営の基本方針に関する事項
支部長会議	2	4月、10月	支部運営
企画委員会	4	6月、9月、12月、7年2月	H6年4月以降、新企画委員会として再編。 事業計画、定款諸規定の変更立案、予算決算等と新体制(リストラ80)へ向けた検討企画。
拡大リストラ80協議会	3	4月、6月、9月	} 新企画委員会で議論する上記議案
企画小委員会	8	4月、6月、7月、9月、11月、12月7年1月、2月	
学術準備小委員会	6	3月、4月、6月、7月、9月、11月	
技術準備小委員会	4	3月、6月、9月、11月	
表彰奨励推薦分科会	3	4月、7月、11月	
境界領域委員会	4	4月、6月、9月、12月	企画、予算の調整、新分科会設立検討
境界領域企画分科会	4	6月、9月、11月、7年2月	チタン、電磁プロセス、プラズマ、自動車材料、粉末焼結の各分科会の調整
編集委員会	7	4月、7月、9月	会誌編集方針の決定、講演大会方針の決定、俵・澤村論文賞の選考、編集委員
		11月、12月、7年1月、2月	構成の検討
和文会誌分科会	11	8月を除く毎月1回	「鉄と鋼」の編集
欧文会誌分科会	11	8月を除く毎月1回	「ISIJ International」の編集
講演大会分科会	6	隔月	講演大会、討論会の企画・実施、「材料とプロセス」の編集
俵論文賞選考小委員会	3	3月、5月、7月	俵論文賞の選考
澤村論文賞選考小委員会	3	3月、5月、7月	澤村論文賞の選考
機械翻訳推進分科会	2	8月、12月	辞書の構築、翻訳サービスの提供
育成委員会	3	3月、9月、7年1月	育成事業企画、予算の審議
育成企画小委員会	5	4月、6月、9月、11月、 7年2月	知的材、技術講座、鉄鋼工学セミナー、日向学術交付金、学生見学会、 ものづくり教育、連鑄技術史、外国人奨学 各分科会の調整
国際交流委員会	4	3月、6月、9月、12月	国際交流活動の企画・立案・推進
組織委員会			
第1回世界製鉄会議	2	4月、7月	会議運営、フルペーパー審査、プロシーディングス作成
材料電磁プロセス国際会議	3	3月、7月、11月	会議運営、フルペーパー審査、プロシーディングス作成
高濃度窒素鋼国際会議	2	4月、7年2月	アブストラクト審査、2nd 3rd サークュラーの検討
第1回世界製鋼会議	2	4月、7月	アブストラクト審査、2nd サークュラーの検討
第2回日本・カナダシンポジウム	1	6月	企画・立案・推進
第7回日本・中国鉄鋼	1	12月	企画・立案・推進
学術会議			
小規模国際会議「IF	1	3月	会議運営、フォーラムブック作成
鋼の金属学国際フォーラム」			
小規模国際会議	2	3月、10月	会議運営、アブストラクト作成
「低炭素高強度鋼の			
組織に関する国際シ			
ンポジウム」			
各種小規模国際会議	4~6	随時	企画・立案・推進
研究委員会	6	隔月	本会の研究業務の企画および調整
研究テーマ小委員会	3	11月、7年1月、3月(東京)	主要技術課題の募集・整理・公開 研究テーマの公募・整理・選定・公開

会議名	開催回数	開催月(予定)	議案
研究環境実態調査小委員会	4	未定	大学及び企業研究者の研究環境の実態調査
海洋材料小委員会	4	4月、7月、10月、1月(東京)	海洋材料開発に関する調査・情報交換
製鋼研究連絡会	2	5月、2月(東京)	製鋼に関する研究テーマの協議、研究テーマへ応募
科研費研究小委員会	2	7月	科研費に関する調査・提言
鉄鋼研究振興助成金選考委員会	2	3月、11月	助成テーマの募集・選考
国際鉄鋼技術委員会	4	未定	I I S I 総会のパネル討議および技術委員会(TECHCO)への対応等
鉄鋼技術情報センター運営委員会	1	9月	鉄鋼技術情報センター閉鎖に伴う図書資料、情報業務の件
標準化業務は日本鉄鋼連盟に移管いたします			
鉄鋼標準化センター運営委員会	3	7月、12月、7年2月	事業計画、予算・決算等
TC17諮問部会	3	3月、9月、7年2月	TC17総会の運営及びフォローアップ
TC17/SC1諮問部会	4	5月、9月、12月、7年2月	規格案件等
TC67/SC5諮問部会	8	随時	規格案件等
標準化委員会	3	7月、12月、7年2月	分科会報告の審議とJIS素案及び協会規格の承認
運営分科会	4	随時	年度計画案作成、各分科会間の調整に関する事項
JP1分科会	4	"	構造用鋼に関するJIS素案、ISO規格原案審議
JP2分科会	4	"	圧力容器用鋼
JP3分科会	4	"	薄板
JP4分科会	4	"	特殊鋼
JP5分科会	4	"	線材
JP6分科会	6	"	鋼管
JP7分科会	4	"	油井・油送管
JE1分科会	4	"	基本規格
JE2分科会	4	"	機械試験方法
JE3分科会	4	"	鋼質判定試験方法
JE4分科会	4	"	鉄鋼分析
JE5分科会	4	"	非破壊試験
鋼材JIS三者委員会	3	7月、11月、7年2月	JIS原案の承認
小委員会	2	8月、7年2月	"
鉄鋼標準試料委員会	1	7年2月	標準試料の更新及び新製品(特に極微量炭素定量専用鋼の検査課シリーズ)の開発、事業の効率化(一部事業の外部委託)並びに国際化に関する事項
運営部会	3	5月、9月、7年2月	製造計画、標準値の決定

II 会員

会員団体組織規程を廃止し、分会組織規程と改正し平成6年4月1日より実施

III. 一般会計による事業

1. 刊行事業

- 1.1 鉄と鋼 Vol.80、No.3~Vol.81、No.2 12冊刊行。
- 1.2 ISIJ International Vol.34、No.3~Vol.35、No.2、12冊刊行。
- 1.3 材料とプロセス Vol.7、No.1~No.6 6冊刊行。
- 1.4 図書の刊行 11点発行。
ステンレス鋼の耐候性部会報告、鉄鋼の初期凝固研究部会報告、高純度Fe-Cr合金研究部会報告、圧延ロール研究部会報告、機械試験小委員会報告、変形特性の予測と制御部会報告、ベイナイト調査部会報

告、耐火物の組織評価研究部会報告、マイクロ組織センサー研究部会報告、組織制御性質研究部会報告、鉄鋼の表面高機能化部会報告
1.5 名簿の刊行 名簿('93,94,95年版)

2. 講演大会事業

- 2.1 第127回(春季)講演大会 H6.3.30~4.1 東京工業大学
懇親会 H6.3.30 目黒雅叙園 ISIJオープンパーティー H6.3.31
学内食堂
- 2.2 第128回(秋季)講演大会 H6.10.8~10 九州大学(箱崎キャンパス)
懇親会 H6.10.8 日航ホテル福岡 ISIJオープンパーティー
H6.10.9 生協中央食堂
工場見学会 H6.10.11 (三菱重工・長崎造船所)(新日本製鐵・八幡製鉄所、TOTO小倉工場)
同伴者コース H6.10.9(有田焼窯元めぐり)

3. 育成事業

- 3.1 最新鉄鋼学術書の出版
2冊を刊行。

3.2 西山記念技術講座

第153・154回 H6.5.16～17(東京)、6.1～2(大阪) 鋼のスラブ連続
 鑄造技術の最新の動向

第155・156回 H7.2(東京、大阪) 軟磁性材料

3.3 白石記念講座

第26回 H6.7.13(東京) 基礎素材事業分野における研究開発体制

第27回 H6.11 (東京) 普通鋼電気炉業の現状と展望

3.4 鉄鋼工学セミナー

第20回 H6.7.23～29(宮城県蔵王町)

3.5 鉄鋼工学アドバンストセミナー

第2回をH6.11～12月に計画。

3.6 学生見学会

第9回 H6.3.14～17 全国18会場

3.7 ものづくり教育を考える会

平成6年度は、東海、関西、中国・四国、九州の4支部で計画。もの
 づくり教育を考える会を推進。

3.8 外国人研究員奨学制度

H6年9月以降に1名招聘。

5. 技術調査・研究事業

平成6年度は新規部会が5件(基礎研究会2件、特基研究会3件)発足

会 議 名	開催日/開催地(予定)
5.1 共同研究会	
運営委員会	6月、12月(東京)
総務幹事会	6月、12月(東京)
製鉄部会	6月(川鉄・水島) 11月(中山・合鉄)
コークス部会	5月(神鋼、関熱/加古川) 11月(NKK・京浜)
製鋼部会	3月(神鋼・神戸) 9月(新日鉄・君津)
電気炉部会	5月(トピー・豊橋) 10月(日鋼・室蘭)
特殊鋼部会	3月(NKK・京浜) 9月(未定)
鋼板部会	
分塊分科会	6月(神鋼・加古川) 11月(大同・知多)
厚板分科会	6月(未定) 11月(新日鉄・名古屋)
ホットストリップ分科会	6月(新日鉄・君津) 11月(NKK・京浜)
コールドストリップ分科会	6月(NKK・京浜) 11月(新日鉄・八幡)
亜鉛めっき鋼板部会	8月(NKK・京浜) H7年2月(新日鉄・八幡)
条鋼部会	
大形分科会	5月(NKK・福山) 11月(新日鉄・君津)
中小形分科会	5月(山特, 合鉄/姫路) 11月(愛知・知多)
線材分科会	5月(大同・知多, 星崎) 11月(新日鉄・室蘭)
鋼管部会	5月(川鉄・千葉) 10月(新日鉄・東京, クボタ・市川)
継目無鋼管分科会	11月(住金・大阪本社)
溶接鋼管分科会	12月(新日鉄・本社)

4. 国際交流事業

4.1 国際会議

第1回世界製鉄会議をH6.6.14-17に仙台国際センターで開催予定。
 材料電磁プロセス国際会議をH6.10.25-28に名古屋大学シンポジ
 オンで開催予定。

H7年に開催予定の第4回高濃度窒素鋼国際会議に関しては2nd Cir-
 cularを発行、アブストラクトを募集。

H8年に開催予定の第1回世界製鋼会議に関しては2nd Circularを発
 行、アブストラクトを募集。

4.2 小規模国際会議

IF鋼の金属学国際フォーラムをH6.5.10-11東京アルカディア市ヶ谷
 私学会館で開催予定。

低炭素高強度鋼の組織に関する国際シンポジウムをH6.11.29-12.1東
 京大学山上会館で開催予定。

H7年に開催予定の小規模国際会議の準備。

4.3 二国間シンポジウム

第2回日本・カナダシンポジウムをH6.8.22-25にカナダ・トロント市
 で開催予定。

H7年開催予定の第7回日本・中国鉄鋼学術会議の準備。

会 議 名	開催日/開催地(予定)
高級ラインパイプ専門委員会	4月、11月/協会
圧延理論部会	6月(東京) 11月(愛知・本社)
熱経済技術部会	6月(新日鉄・名古屋) 11月(中山・大阪, 合鉄・大阪)
耐火物部会	6月(中山・船町) 11月(大同・知多)
制御技術部会	5月(川鉄・千葉) 9月(東芝) 12月(住金・鹿島)
品質管理部会	7月(住金・鹿島) 12月(新日鉄・大分)
機械試験小委員会	6月(鋼板・下松) 11月(NKK・福山)
非破壊検査小委員会	3月(新日鉄・室蘭) 9月(大同・知多)
物流部会	11月(神鋼・加古川)
鉄鋼分析部会	11月(川鉄・千葉)
化学分析分科会	5月(東京) 11月(川鉄・千葉)
機器分析分科会	5月(東京) 11月(川鉄・千葉)
表面分析小委員会	未定
析出物分析小委員会	未定
鋼中微量炭素定量法 研究小委員会	未定
設備技術部会	
銑鋼設備分科会	5月(新日鉄・名古屋) 11月(川鉄・水島)
圧延設備分科会	6月(三菱重工・広島) 12月(神鋼・加古川)
調査部会	未定
5.2 特基研究会	
運営委員会	6月、12月(協会)
変形特性の予測と制 御部会	4月(最終報告会)

会議名	開催日/開催地(予定)
鉄鋼初期凝固研究部会	2回/年・協会, シンポジウム会場(未定)
高純度Fe-Cr合金研究部会	4回/年・協会, シンポジウム会場
鉄鋼の表面高機能化部会	3回/年・協会, 春講演大会会場/討論会
ステンレス鋼の耐候性部会	5月、9月、H7年1月(東京)
表面処理鋼板の界面化合物部会	5月、10月、H7年2月(東京)
循環性元素分離部会	5月、11月、H7年2月(未定)
鉄鋼の高強度化部会	4月、8月、12月(東京)
鉄鋼スラッグの基礎と応用部会	9月、2月(東京)
4流体の移動現象部会	5月(東京), 12月(神戸)
高強度の遅れ破壊部会	4回/年(東京)
スクラップ起因不純物元素の鋼材への影響部会	未定
新コークス製造技術の基礎工学研究部会(仮称)	4月、2月(東京)
耐火物の組織形態に関する評価法の研究(仮称)	未定

6. 技術情報事業

6.1 資料のマイクロフィルム化等

「鉄と鋼」「材料とプロセス」「ISIJ International」共同研究会資料・学術振興会製鋼第19委員会・製鉄第54委員会資料のマイクロフィルム作成、「共同研究会資料索引誌」の作成。

6.2 JICST(JOIS)技術文献の抄録、校閲

JICSTの科学技術文献データベースの抄録、校閲
抄録 4,500件 校閲 5,500件

6.3 著作物の頒布

Ⅲ.1.4の出版企画している11点の出版物ならびに和・欧文会誌、「材料とプロセス」、西山・白石各講座テキスト、会員名簿その他特別報告書等の頒布。

7 標準化事業

標準化事業は日本鉄鋼連盟に移管いたします

7.1 標準規格作成事業

7.1.1 国内規格審議作成活動

(1) JISの見直し及び整合性調査

JIS見直し20規格とそれに対応するISO26規格について整合性の調査を実施。

(2) 新規及び改正原案の作成

新規は、薄板の塑性ひずみ比(r値)測定方法、薄板の加工硬化指数(n値)測定方法の2規格、改正は棒鋼及びバーインコイルの形状寸法許容差など39規格のJIS改正原案の作成を予定。

7.1.2 ISO規格審議活動

(1) 定期見直し及びISO規格原案

定期見直し48件の審議及びCD20規格、DIS25規格についてコメントの作成及び投票を行う予定。(H5年度に比べ12規格増)

(2) 出席予定のISO国際会議

TC17関係 8会議、TC67関係 10会議、TC164関係 6会議

(3) 窒素定量方法(G1228)で規定している不活性ガス融解熱電導度法の改良法をISO化するため「提案型国際規格案件」として通産省から補助金を受け、ISOへの提案原案を作成。

会議名	開催日/開催地(予定)
再結晶・集合組織に関する研究(仮称)	未定
5.3 基礎研究会	
運営委員会	6月、12月(協会)
ベイナイト調査研究部会	未定
VAMAS材料評価研究部会	6月、12月(東京)
圧延ロール研究部会	7月(東京)
マイクロ組織センサー研究部会	10月(秋季講演大会にて最終報告会)
高強度鋼板の疲労強度向上研究部会	4回/年・協会
鋼中介在物による組織と材質の制御部会	3月、6月、9月、12月(未定)
ネットネストシティ研究部会	毎月(東京)
実用構造用鋼の基礎特性の研究部会(仮称)	4回/年・協会、部会加入事業所
材料の機能特性と組織形状(へのメソスコピックアプローチ)研究報告(仮称)	4回/年・協会

7.1.3 鉄鋼JIS三者委員会

形状・寸法許容差2件、圧力容器用鋼4件、薄板3件、特殊鋼1件、線材2件、鋼管2件、分析3件、非破壊試験2件、計19件について見直し調査を行い、合せて新規2件、改正16件のJIS原案を作成。

7.2 ISO幹事国事業

7.2.1 国際会議

(1) 日本(幹事国)主催の国際会議

- ① ISO/TC17総会 11月 フィラデルフィア
- ② ISO/TC17/SC1 6月7日～10日 神戸
- ③ ISO/TC67/SC5 9月26日～27日 幕張

(2) 他SC幹事国が主催する国際会議

- ① ISO/TC17関係
SC19(5月)、SC4(6月)、SC3(9月)、SC7(10月)、SC12、SC20(時期未定)
- ② ISO/TC67関係
SC1(1月)、WG2(2月)、TC67(9月)、AG3(9月)

7.2.2 ISO/TC17幹事国業務

(1) ISO規格成立の目標

戦略的業務指針に取りまとめたスピードアップの方策の推進によりH6年度中に14件のISO規格発行。

(2) 重点事項の推進

H5年6月開催のTC17/EC会議の決定に基づき、次の事項の具体的な推進。

- ① 戦略的業務指針の規定事項の具体的な推進
規格作成のより一層の迅速化、新作業項目(製品規格)の計画的な採用、規格改正について投票結果のみならず技術的な意見への十分な配慮。
- ② ウィーン協定の適切な実行の推進
ウィーン協定に対するTC17ガイドの発行及び2つのガイドにもとづいての各SCにおける適用状況の把握。必要に応じて改善策の検討。
- ③ 基本規格、試験法規格について新作業項目の計画的な採用
ISO規格と国家規格、EN規格の対比から、規格化すべき作業項目を抽出し、計画的に推進。

(3)第18回ISO/TC17総会の開催

H6年11月にフィラデルフィアでの開催を計画。各SCの活動状況の把握と問題点についての方向付けおよび(2)の重点事項の討議。

7.2.3 ISO/TC17/SC1幹事国業務

(1)ISO/TC17/SC1 規格作成

①次のISO規格の発行。

- ISO 10698 アンチモン—原子吸光法
- ISO 10700 マンガン—原子吸光法
- ISO 10701 硫黄—吸光光度法
- DTR 10719 遊離炭素—燃焼赤外線吸収法
- ISO 439 けい素—重量法
- ISO 4941 モリブデン—吸光光度法
- ISO 10278 マンガン—プラズマ分光法

②第15回ISO/TC17/SC1会議の開催 (1994-06-07/10 於神戸)

次のCDのうち4件以上を国際会議にて承認し、DIS 登録予定。

- CD 10720 窒素—融解熱伝導率法
- CD 11652 コバルト—原子吸光法
- CD 11653 コバルト—電位差滴定法
- CD 13898 ニッケル、銅、コバルト—プラズマ分光法
- CD 13899 モリブデン、ニオブ、タングステン—プラズマ分光法
- CD 13900 微量ほう素—吸光光度法
- CD 13901 微量ほう素—プラズマ分光法
- CD 13902 高含有硫黄—燃焼赤外線吸収法

③新作業項目の設定(新WGの設立)

極低炭素の定量法、日常分析法(発光分光分析及び蛍光X線分析)、砒素—電気加熱原子吸光法、ニオブ—プラズマ分光法、マンガン—吸光光度法、銅—吸光光度法、クロム—滴定法(精度追加)など4~5件を目標。

(2)他TC/SC との共同作業による規格作成作業の継続。

サンプリング(ISO 377-2の改訂): CDのDIS化
分析機器ガイドライン : WDのCD化

(3)ICASI(国際鉄鋼分析委員会)活動

①第2回国際会議開催: 上記ISO/TC17/SC1会議に合わせた日本開催。国際熟練分析者組織の結成準備などを国際会議にて討議予定。

②情報誌(ICASI Information Bulletin)を1回/年発行予定。

7.2.4 ISO/TC67/SC5幹事国業務

(1)規格作成作業

- ISO規格の発行…ISO 11960(API Spec 5CT) ケーシング、チュービング
- DIS登録及び承認…DIS 11961(API Spec 5D)ドリルパイプ
- CD登録…CD 13679(API RP 5C5)継手性能評価試験方法
- CD 13680(API規格該当なし)耐食性油井管

(2)第14回ISO/TC67総会及び第4回ISO/TC67/SC5国際会議の日本開催。

- TC67/SC5会議 1994-09-26/27 新日鉄幕張研修センター
- TC67総会 1994-09-29/30 石油公団技術開発センター(幕張)
- TC67/SC5主要議題
- 各WGの作業進捗の確認と問題点の討議
- 使用環境、条件を考慮した規格の規定内容のあり方

7.3 鉄鋼標準試料事業

(1)新製品の開発

- ①極微量炭素定量専用鋼(3種類)の認証値決定
 - a) C 45 ppm, b) C 105 ppm, c) C 170 ppm [前年度作成した1種類(C 5ppm)と合わせて微量炭素定量用の検量線シリーズとして使用する。]
- ②品種を統合した合金鋼シリーズの開発
- ③粉末冶金法による合金鋼標準試料の開発

(2)更新品の作成—22品種

主なもの a) 高純度鉄(不純物20 ppm程度のもの) b) 高純度酸化鉄

(3)原価低減対策の検討

- ①品種統合、在庫縮小の徹底推進
- ②調整費用削減対策の検討

(4)委員会発足40周年行事の実施

①技術報告書(第2版)の発行

(5)委員会内規細則(改訂版)の発行

(6)国際カタログの発行

(7)国際化の推進

- ①中国との交流実験開始(第2回目の実験実行)
- ②ISO/REMCO Guide の受入れによる内規の改訂

IV. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業

1.1 表彰

渡辺義介賞、西山賞、服部賞、香村賞、渡辺三郎賞、野呂賞、渡辺義介記念賞、西山記念賞、日本金属学会・日本鉄鋼協会奨学賞の授与 1回 4月

浅田賞、三島賞、林賞、山岡賞、俵論文賞、澤村論文賞、里見賞(外部資金の受入れによる)の授与 1回 10月

1.2 湯川メモリアルレクチャー並びに湯川記念講演会の開催

湯川メモリアルレクチャーは、H6.11月または12月に開催の予定。湯川記念講演会は支部主催により随時。

1.3 石原・浅田研究助成金の交付 1回

1.4 日向方斉学術振興交付金 2回

1.5 浅田記念文庫の寄贈 3回

1.6 鉄鋼研究振興助成金

第3回の助成として、総額4640万円を55人に交付。(H4年度の3年目分:1000万円、16人。H5年度の2年目分:1140万円、19人。H6年度の初年度分:2500万円、20人)第4回助成金交付のため、H7年度の助成テーマの公募(「鉄と鋼」5月号にて会告)。

2. その他補助金等会計による事業

2.1 日本圧力容器研究会議

委員会・部会名	開催回数	開催月・場所(予定)	研究テーマ・その他
日本圧力容器研究会議 運営委員会	3	3月、6月、12月	企画、運営、調整
圧力容器用鋼材専門委員会	4	未定	構造用鋼の冷間加工特性
水素脆化専門委員会	4	未定	C-1/2Mo鋼の水素侵食材料の材料評価他1テーマ
非破壊試験専門委員会	4	未定	肉盛溶接部試験体の欠陥評価試験
データ収集委員会	4	未定	Cr-Mo鋼の経年劣化材料データベースの構築
MPC委員連絡会	4	未定	MPC関連の情報交換と戦略的対応

2.2 ネットネストシティー研究

(財)機械システム振興協会の委託研究として、環境にやさしい都市空間を提案する。

2.3 フレームおよび外装と一体化したフレームのリサイクルに関する研究

(財)トステム建材産業振興財団の助成を受け建材について、その耐久性、リサイクル性を研究する。

V. 支部

1. 事業

1.1 北海道支部

1) 運営関係

(1)総会 定例 H7.1 (2)評議員会 2回開催。H6.6、H7.1 (3)理事会 2回開催。H6.6、H7.1

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
素材製造技術研究会第1回	日本金属学会北海道支部	H6.7	札幌	特別講演、一般講演
” 第2回	”	H6.12	室蘭	特別講演、一般講演
鋼材・新素材研究会第1回	”	H6.7	札幌	特別講演、一般講演
” 第2回	”	H6.12	室蘭	特別講演、一般講演

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
湯川記念講演 第1回	日本金属学会北海道支部	H6.6	北海道大	未定	
” 第2回	”	H7.1	室蘭工大	未定	
夏季講演大会	”	H6.6	北海道大		
冬季講演大会	”	H7.1	室蘭工大		

(3)その他 「鉄と鋼」ISIJ情報ネットワーク支部だより(H7/1号)の原稿作成

1.2 東北支部

1) 運営関係

(1)総会 1回開催 (2)評議員会 1回開催 (3)理事会 2回開催 (4)各種小委員会 適宜開催

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
第5回難処理希少資源研究センター研究懇談会	日本金属学会東北支部、資源・素材学会東北支部、(財)素材工学研究会	未定	未定	未定
第2回還元研究会		未定	未定	未定
東北大学素材工学研究所第3回研究懇談会	東北大学素材研、素材工学研究会、資源・素材学会東北支部、粉体工学学会東北支部、東北地区化学工学懇話会	未定	未定	未定
第8回プロセス工学研究会		未定	未定	未定

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
湯川記念講演会		未定	未定	未定	
第1回地区講演会	日本金属学会東北支部	未定	未定	未定	
第2回地区講演会	”	未定	未定	未定	
特別講演会	日本金属学会、溶接学会、日本鋳物協会、資源・素材学会各東北支部、軽金属学会東北センター、および関係諸団体と適宜共催	5~6件予定	未定	未定	
第30回金属関係六学協会東北支部連合シンポジウム	日本金属学会、溶接学会、日本鋳物協会、資源・素材学会各東北支部、軽金属学会東北センター	未定		未定	
大学と市民のフォーラム	東北大学工学部、理学部、薬学部、電気化学協会東北支部	H6.4.3-5	仙台国際センター、東北大学教育研究センター		

1.3 北陸支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.12 (2)評議員会 2回開催 H6.6、12 (3)理事会 2回開催 H6.6、12

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
富山地区材料部会		4回	未定	課題テーマ討論会、講演会
福井地区研究会材料フォーラム		4回	未定	未定
研究会 富山地区 石川地区 新潟地区 長野地区		各1回	未定	未定

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会北陸信越支部	H6			
支部連合講演会	日本金属学会北陸信越支部	H6	新潟大学(予定)		
特別講演会 富山地区 福井地区研究会 石川地区 新潟地区 長野地区		各1回	未定	未定	未定

(3)その他の事業

支部創立50周年記念行事 ①記念講演・祝賀会(富山) ②記念誌の発行(富山)

1.4 東海支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.3.15 (2)評議員会 なし (3)理事会 5回開催 H6.3.15、H6.5、H6.8、H6.10、H7.2

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
若手冶金エンジニア研究会		3回		
若手材料研究会		3回		

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
学術討論会		1回			
特別講演会		2回			
湯川記念講演会		2回			
金属材料談話会		4回			
材料プロセッシング談話会		4回			
講習会		1回			

(3)育成事業：学生による材料フォーラム H6.12

(4)その他の事業：①見学会 1回 ②ものづくり教育を考える会

1.5 関西支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.3.28 (2)評議員会 2回開催 H6.3.28、H6.9 (3)理事会 5回開催 H6.3.28、H6.7、H6.9、H6.11、H7.2

(4)各種委員会

①企画小委員会 2回開催 ②学術運営小委員会 2回開催 ③財務広報小委員会 2回開催 ④「ものづくり教育を考える会」実行委員会 2回開催
⑤材料評価セミナー運営委員会 2回開催 ⑥支部小史委員会 2回開催

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
材料物性工学談話会	日本金属学会関西支部	4回		
鉄鋼プロセス研究会	〃	4回		
材料開発研究会	〃	4回		
関西分析研究会	〃	3回		
材料化学研究会	〃	3回		

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
支部講演会	日本金属学会関西支部	H6.3.4	川崎重工	秋山 尚史	
湯川記念講演会(第1回)	〃	H6.3.28	川崎製鉄	三田村外喜男 宮本 昌幸	
湯川記念講演会(第2回)	〃	H6.9			
支部講演会	〃	H6.11			
材料評価セミナー (実習つき講習会)	〃				
①材料における拡散				小岩 昌宏 南野 宣俊	
②表面分析			島津製作所	深町 正利 篠山 哲明	
③組織観察			兵庫県立工業技術 センター	城野 政弘 駒井謙次郎	
④X線回折			リガク	長村 光造 藤縄 剛	
⑤理論解析(DV-X α 法)			日本電子計算	足立 裕彦 那須 三郎	

(3)見学会 ①H6.3.4 川崎重工業(株) 明石工場 ②H6.11 未定

(4)その他の事業 懇親会 H6.3.28

1.6 中国四国支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.3.18 (2)評議員会 1回開催 H6.6 (3)理事会 2回開催 H6.8、H7.2 (4)幹事会 3回開催

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
金属物性研究会	日本金属学会中国四国支部	3回		
材質制御研究会	〃	3回		

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
学術講演会(湯川記念講演会)	日本金属学会中国四国支部	H6.3.18	広島弥生会館	飯田 孝道 樫野 紀元	
学術講演会(湯川記念講演会)	〃	H6.8	愛媛大学		
講演大会	〃	H6.8	愛媛大学		
第31回分析化学講習会	〃	H6.8.18	岡山大学		

(3)見学会 H6.8 帝人精機、他(共催・後援：日本金属学会中国四国支部)

(4)その他の事業

ものづくり教育を考える会「高校理科系教諭の製鉄所見学と鉄鋼技術者・研究者との懇談会」 H6.8.8-9 日新製鋼 呉

1.7 九州支部

1) 運営関係

(1)総会 H6.3.18 (2)評議員会 2回開催予定 H6.3.18、8.19 (3)理事会 3回開催予定 H6.3.18、8.19、H7.1.13 (4)実行委員会 4回開催予定 H6.3.11、6.10、8.19、11.11

2) 事業関係

(1)研究会

名称	共催・後援団体	開催日	会場	主な内容
材料科学談話会		7~9回/年	未定	未定
材料工学談話会		5~7回/年		
材料プロセス談話会		4~6回/年		

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名称	共催・後援団体	開催日	会場	講師等	参加者数
第84回学術講演会	日本金属学会九州支部	H6.6.3	九州工業大学	未定	
第83回講演討論会	〃	H6.3.18	新日鉄八幡		
第85回講演討論会	〃	H6.12.2	熊本大学		
第48回湯川記念講演会	〃	H6.3.18	新日鉄八幡		
第49回湯川記念講演会	〃	H6.12.2	熊本大学		

(3)見学会 住金小倉製鉄所、他(開催日未定)

2. 収支予算

収入の部

(単位：円)

科目	合計	北海道	東北	北陸	東海	関西	中国四国	九州
本部補助金	7,909,610	547,800	467,000	415,000	1,463,910	2,663,900	1,173,000	1,179,000
(基本補助金)	1,780,000	200,000	200,000	200,000	240,000	400,000	300,000	240,000
(会費補助金)	2,638,110	107,800	118,000	69,000	371,910	1,009,400	623,000	339,000
(事業補助金)	3,491,500	240,000	149,000	146,000	852,000	1,254,500	250,000	600,000
会参他	1,115,000	0	0	0	570,000	0	545,000	0
利加	2,911,000	50,000	0	806,000	690,000	1,365,000	0	0
子分	1,015,000	15,000	0	500,000	0	0	0	500,000
雑収	330,157	40,000	1,000	0	0	150,000	80,000	59,157
支部	754,000	0	0	300,000	24,000	130,000	0	300,000
収入	483,850	0	0	0	0	483,850	0	0
当期収入合計(A)	14,518,617	652,800	468,000	2,021,000	2,747,910	4,792,750	1,798,000	2,038,157
前期繰越収支差額(B)	14,376,509	1,025,657	573,009	73,997	999,692	4,027,999	5,435,795	2,240,360
収入合計(A+B)	28,895,126	1,678,457	1,041,009	2,094,997	3,747,602	8,820,749	7,233,795	4,278,517
(参考)湯川記念講演会委託費	2,000,000	200,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000

支出の部

研究会費	2,044,000	300,000	120,000	400,000	144,000	630,000	150,000	300,000
講演・講習会費等	5,219,000	180,000	270,000	1,200,000	1,410,000	1,059,000	200,000	900,000
支部創立記念事業費	440,000	0	50,000	0	150,000	90,000	150,000	0
その他事業費	850,000	0	0	300,000	0	550,000	0	0
事業補助対象額(C)	280,000	0	0	0	0	180,000	0	100,000
湯川記念講演会支出超過額	8,833,000	480,000	440,000	1,900,000	1,704,000	2,509,000	500,000	1,300,000
事業費合計(D)	60,000	0	0	0	0	10,000	0	50,000
管理費	8,893,000	480,000	440,000	1,900,000	1,704,000	2,519,000	500,000	1,350,000
会議交通費	1,382,000	100,000	50,000	10,000	132,000	320,000	170,000	600,000
事務通信費	536,500	6,500	40,000	50,000	30,000	250,000	160,000	0
印刷費	1,832,000	0	20,000	0	120,000	800,000	692,000	200,000
雑予備費	362,000	20,000	20,000	30,000	72,000	120,000	70,000	30,000
管理費合計(E)	458,000	30,000	10,000	20,000	48,000	200,000	150,000	0
支出の部合計(D+E)	263,287	13,500	10,000	3,787	60,000	70,000	56,000	50,000
当期支出合計	300,000	0	0	0	300,000	0	0	0
当期収支差額(A-C)	5,133,787	170,000	150,000	113,787	462,000	2,060,000	1,298,000	880,000
次期繰越収支差額(B-C)	14,026,787	650,000	590,000	2,013,787	2,166,000	4,579,000	1,798,000	2,230,000
収支差額(A+B)-(D+E)	14,868,339	1,028,457	451,009	81,210	1,581,602	4,241,749	5,435,795	2,048,517

VI. 平成6年度(自平成6年3月1日 至平成7年2月28日)収支予算

平成6年度収支予算総括表

費目	一般会計 I	別途資金会計 II			補助金等事業会計 III	合計 I+II+III
		特別資金(7)	積立金等(4)	小計(7)+(4)		
収入の部						
会費収入	661,201,490			0		661,201,490
事業収入	393,276,510			0		393,276,510
補助金・受託金収入		0	0	0	4,800,000	4,800,000
寄付金・負担金・分担金収入		0	2,417,000	2,417,000	3,611,666	6,028,666
利子・雑収入	9,400,000	55,698,000	9,756,000	65,454,000	500,000	75,354,000
繰入金収入	510,000	10,000,000	46,400,000	56,400,000	0	56,910,000
当期収入合計(A)	1,064,388,000	65,698,000	58,573,000	124,271,000	8,911,666	1,197,570,666
前期繰越収支差額	51,026,950	1,029,303,872	414,652,717	1,443,956,589	19,176,779	1,514,160,318
収入合計(B)	1,115,414,950	1,095,001,872	473,225,717	1,568,227,589	28,088,445	2,711,730,984
支出の部						
事業管理費	837,013,410	67,706,000	500,000	68,206,000	14,884,795	920,104,205
管理費	174,498,000	0	29,600,000	29,600,000	0	204,098,000
繰出金支出	56,400,000	0	510,000	510,000	0	56,910,000
予備費	47,503,540	0	0	0	0	47,503,540
当期支出合計(C)	1,115,414,950	67,706,000	30,610,000	98,316,000	14,884,795	1,228,615,745
当期収支差額(A-C)	-51,026,950	-2,008,000	27,963,000	25,955,000	-5,973,129	-31,045,079
次期繰越収支差額(B-C)	0	1,027,295,872	442,615,717	1,469,911,589	13,203,650	1,483,115,239

平成6年度一般会計収支予算内訳表

支出の部				収入の部				(単位:円)			
事業別	費目	6年度予算金額(A)	5年度予算金額(B)	増減(A)-(B)	事業別	費目	6年度予算金額(A)	5年度予算金額(B)	増減(A)-(B)		
編集・業務事業費	境界領域委員会費	8,450,000	5,987,000	2,463,000	編集・業務事業収入	境界領域委員会分譲収入	500,000	0	500,000		
	編集委員会費	1,900,000	2,286,000	-386,000		和文誌分譲収入	24,700,000	22,000,000	2,700,000		
	和文会誌費	107,720,000	103,590,000	4,130,000		広告収入	19,000,000	19,000,000	0		
	欧文会誌費	39,310,000	43,890,000	-4,580,000		その他事業収入	300,000	300,000	0		
	材料とプロセス費	19,864,000	21,293,000	-1,429,000		用紙積立金	0	0	0		
	その他刊行費	8,000,000	8,220,000	-220,000		小計	44,000,000	41,300,000	2,700,000		
	講演大会費	15,981,000	19,855,000	-3,874,000		欧文誌分譲収入	15,000,000	14,000,000	1,000,000		
	小計	192,775,000	199,134,000	-6,359,000		広告収入	600,000	500,000	100,000		
	育成委員会費	1,442,000	1,162,280	279,720		補助金収入	10,000,000	9,100,000	900,000		
	西山技術講座費	8,146,000	12,264,100	-4,118,100		その他事業収入	0	100,000	-100,000		
	白石記念講座費	4,006,000	3,885,900	120,100		小計	25,600,000	23,700,000	1,900,000		
	鉄鋼工学セミナー費	21,640,000	21,624,800	15,200		材料とプロセス分譲収入	30,000,000	33,000,000	-3,000,000		
	学生見学会費	13,107,000	20,182,990	-7,075,990		広告収入	3,200,000	3,200,000	0		
	ものづくり教育費	3,769,000	4,058,350	-289,350		小計	33,200,000	36,200,000	-3,000,000		
	知的財活用費	3,015,000	1,468,560	1,546,440		その他刊行物分譲収入	10,000,000	3,200,000	6,800,000		
アドバンスセミナー費	3,774,000	0	3,774,000	小計	10,000,000	3,200,000	6,800,000				
外国人研究費	5,316,000	0	5,316,000	講演大会参加費収入	5,320,000	4,790,000	530,000				
連続製造技術史	1,239,000	0	1,239,000	広告収入	250,000	250,000	0				
厚板製造技術史	500,000	0	500,000	小計	5,570,000	5,040,000	530,000				
小計	65,954,000	64,646,980	1,307,020	西山テキスト分譲収入	5,269,000	6,168,400	-899,400				
会員事務管理費	4,208,500	3,995,700	212,800	広告収入	300,000	300,000	0				
支部関係費	7,610,000	6,608,000	1,002,000	西山記念資金繰入	2,577,000	5,795,700	-3,218,700				
分会活動費	1,470,000	0	1,470,000	小計	8,146,000	12,264,100	-4,118,100				
以上計	280,467,500	280,371,680	95,820	白石テキスト分譲収入	786,000	786,500	-500				
人件費	65,860,000	68,560,000	-2,700,000	広告収入	200,000	200,000	0				
管理費	16,146,000	15,993,000	153,000	白石記念資金繰入	3,020,000	2,899,400	120,600				
				小計	4,006,000	3,885,900	120,100				
				鉄鋼工学向け参加費収入	21,758,000	21,758,100	-100				
				アドバンスセミナー参加費収入	3,805,000	0	3,805,000				
				知的財頒布収入	2,910,000	0	2,910,000				
				学生見学会分担保金	9,060,000	15,674,300	-6,614,300				
				外島記念資金繰入	1,739,000	0	1,739,000				
				計	170,294,000	163,022,400	7,271,600				
国際交流委員会費	248,800	358,800	-110,000	国際事業収入	世界製鉄会議収入	15,980,000	0	15,980,000			
コンピュータ国際会議費(93)	0	17,659,800	-17,659,800		材料電磁波ロッキング国際会議収入	9,980,000	0	9,980,000			
世界製鉄会議(94)	15,630,200	3,443,200	12,187,000		I F鋼の金属学国際フォーラム収入	5,800,000	0	5,800,000			
材料電磁波ロッキング国際会議(94)	8,300,200	800,400	7,499,800		低炭素鋼高強度鋼の組織メカニズム収入	3,990,000	0	3,990,000			
I F鋼の金属学国際フォーラム費(94)	5,000,400	0	5,000,400		コンピュータI Cテキスト分譲収入	0	900,000	-900,000			
低炭素鋼高強度の組織メカニズム費(94)	3,194,800	0	3,194,800		コンピュータI C参加費収入	0	15,000,000	-15,000,000			
高濃度空素鋼国際会議費(95)	939,000	0	939,000		日・独シンポジウム参加費収入	0	1,520,000	-1,520,000			
世界製鉄会議(95)	477,600	0	477,600								
日・独シンポジウム費(93)	0	5,186,700	-5,186,700								
日・独シンポジウム費(94)	3,629,800	0	3,629,800								
国際会議準備費	4,682,600	5,251,900	-569,300								
以上計	42,103,400	32,700,800	9,402,600								
人件費	38,040,000	47,528,000	-9,488,000								
管理費	5,988,000	6,154,000	-166,000								
計	86,131,400	86,382,800	-251,400								
研究委員会費	3,868,000	3,782,000	86,000	技術研究調査事業収入	分譲収入	2,200,000	0	2,200,000			
共同研究会費	35,057,000	36,783,000	-1,726,000								
特基研究会費	53,200,000	60,150,000	-6,950,000								
基礎研究会費	8,880,000	12,283,000	-3,403,000								
国際鉄鋼技術委員会費	1,451,000	1,560,000	-109,000								
以上計	102,456,000	114,558,000	-12,102,000								
人件費	30,936,000	36,491,000	-5,555,000								
管理費	12,992,000	13,533,000	-541,000								
計	146,384,000	164,582,000	-18,198,000								
鉄鋼技術情報センター運営委員会費	161,000	1,020,800	-859,800		鉄鋼事業技術取債情報収入	図書館サービス収入	3,775,000	5,774,000	-1,999,000		
図書・資料業務費	7,790,000	15,369,000	-7,579,000			頒布収入	5,000,000	6,240,000	-1,240,000		
情報業務費	4,250,000	4,830,000	-580,000			情報業務収入	13,000,000	14,646,000	-1,646,000		
以上計	12,201,000	21,219,800	-9,018,800								
人件費	32,410,000	40,501,000	-8,091,000								
管理費	34,156,000	42,885,000	-8,729,000								
計	78,767,000	104,605,800	-25,838,800								
鉄鋼標準化センター運営委員会費	2,440,300	3,081,300	-641,000	鉄鋼標準化センター収入		鉄鋼標準化試験料収入	64,000,000	60,000,000	4,000,000		
標準化委員会費	7,428,850	8,439,570	-1,010,720			標準化事業分担保金	93,807,510	117,072,320	-23,264,810		
鉄鋼標準化試験料	47,217,000	49,467,000	-2,250,000			補助金収入	0	8,100,000	-8,100,000		
T C 1 7 業務費	11,546,700	14,267,000	-2,720,300			T C 1 7 補助金	2,030,000	2,030,000	0		
TC17/SC1業務費	8,752,600	9,742,000	-989,400			SC 1 補助金	720,000	720,000	0		
TC67/SC5業務費	5,265,000	5,945,000	-680,000			SC 5 補助金	200,000	200,000	0		
鉄鋼J I S三者会議費	1,095,060	1,271,450	-176,390			J I S 見直し補助金	2,500,000	2,500,000	0		
以上計	83,745,510	92,213,320	-8,467,810								
人件費	50,614,000	60,712,000	-10,098,000								
管理費	28,898,000	32,247,000	-3,349,000								
計	163,257,510	185,172,320	-21,914,810								
事業費合計	837,013,410	905,667,600	-68,654,190								
人件費	114,950,000	108,003,000	6,947,000		会費収入	入会金	765,000	0	765,000		
一般管理費	42,548,000	42,859,000	-311,000			正会員会費	89,699,400	89,591,000	108,400		
名簿構築費	10,000,000	10,000,000	0			学生会員会費	615,000	510,000	105,000		
B 2 撤去搬送費	7,000,000	0	7,000,000	外国員会費		6,389,600	7,350,000	-960,400			
管理費合計	174,498,000	160,862,000	13,636,000	維持会員会費		563,732,490	568,737,680	-5,005,190			
繰入金支出(*)	56,400,000	30,700,000	25,700,000	会費収入合計		661,201,490	666,188,680	-4,987,190			
当期支出合計	1,067,911,410	1,097,229,600	-29,318,190	利子・雑収入		9,400,000	10,400,000	-1,000,000			
予備費	47,503,540	21,629,283	25,874,257	繰入金(基本金)		510,000	0	510,000			
				当期収入合計		1,064,388,000	1,068,863,400	-4,475,400			
				前期繰越収支差額		51,026,950	49,995,483	1,031,467			
総計	1,115,414,950	1,118,858,883	-3,443,933	総計		1,115,414,950	1,118,858,883	-3,443,933			

* 6年度 退職積立金 ¥ 20,000,000 退職年金積立金 ¥ 6,400,000
鉄鋼研究振興資金 ¥ 10,000,000 80周年事業積立金 ¥ 20,000,000

平成6年度別途資金会計収支予算内訳表・補助金等事業会計収支予算内訳表

科	目	特 別 資 金								
		表彰並びに 振興資金 (6,915万円)	渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	湯川正夫 記念資金 (3,000万円)	浅田長平 記念資金 (5,000万円)	白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	日方斉学術 振興資金 (6,000万円)	研究振興資金 (292万円)	外島健吉 記念資金 (10,000万円)
収入の部	補助金・受託金収入	2,212,000	370,000	1,646,000	1,462,000	2,956,000	2,850,000	2,850,000	92,000	4,200,000
	寄附金・負担金・雑収入									
	当期収入合計	2,212,000	370,000	1,646,000	1,462,000	2,956,000	2,850,000	2,850,000	92,000	4,200,000
支出の部	事業費	4,500,000	360,000	360,000	3,000,000	1,100,000	3,020,000			1,739,000
	管理費	250,000		2,577,000		1,000,000				
	当期支出合計	4,750,000	360,000	2,937,000	3,000,000	2,350,000	3,020,000	3,000,000	0	1,739,000
	当期収支差額	-2,538,000	10,000	-1,291,000	-1,538,000	606,000	-170,000	-150,000	92,000	2,461,000
	次期繰越収支差額	84,994,025	16,111,657	44,233,003	45,602,368	53,964,470	60,150,764	56,971,444	4,749,361	87,080,624

科	目	鉄鋼研究 振興資金 (54,350万円)	特別資金合計 (96,557万円)	積 立 金 等					
				基本金	退職金 積立金	退職年金 積立金	厚生資金 積立金	会館資金 積立金	国際会議 積立金
収入の部	補助金・受託金収入	37,060,000	55,698,000	276,000	3,128,000	2,417,000	770,000	363,000	1,243,000
	寄附金・負担金・雑収入	10,000,000	10,000,000		20,000,000	3,766,000			
	当期収入合計	47,060,000	65,698,000	276,000	23,128,000	6,400,000	770,000	363,000	1,243,000
支出の部	事業費	46,550,000	50,050,000	0	0	0	0	0	0
	管理費	510,000	2,706,000	510,000	26,600,000	500,000	0	0	0
	当期支出合計	47,060,000	52,756,000	510,000	26,600,000	500,000	0	0	0
	当期収支差額	0	13,942,000	0	-3,472,000	1,900,000	770,000	363,000	1,243,000
	次期繰越収支差額	573,438,156	1,027,295,872	11,362,274	131,064,432	172,920,597	37,918,922	12,981,154	56,658,338

科	目	創立80周年 記念事業 積立金	積立金等 合計	別途資金 合計	補 助 金 等 事 業			
					日本圧力 容器研究 会 議 会 計	ネット ンティ 研究 会 計	フレム、外装の リウム研究 会 計	補助金等事業 合計
収入の部	補助金・受託金収入	0	0	0	3,611,666	2,800,000	2,000,000	4,800,000
	寄附金・負担金・雑収入	210,000	9,756,000	65,454,000	500,000			3,611,666
	当期収入合計	210,000	9,966,000	65,454,000	500,000			8,411,666
支出の部	事業費	500,000	500,000	3,239,000	10,000,000	2,884,795	2,000,000	14,884,795
	管理費	0	27,100,000	27,100,000	0	0	0	0
	当期支出合計	500,000	27,600,000	30,339,000	10,000,000	2,884,795	2,000,000	14,884,795
	当期収支差額	0	-17,634,000	35,115,000	-9,500,000	-84,795	0	-5,973,129
	次期繰越収支差額	19,710,000	442,615,717	1,469,911,589	13,203,650	0	0	13,203,650